

医療費の動向 令和3年度4月～5月

<概算医療費>

- 令和3年度4月～5月の概算医療費の対前年同月比を見ると、4月は10.6%、5月は11.5%と大きく増加しているが、対前々年同月比を見ると、4月は0.8%、5月は▲1.8%となり、令和元年度の3.2%の伸びに比べると小さい伸びとなっている。
- 診療種類別では、対前年同月比では全ての診療種類がプラスなるも、対前々年同月比では歯科を除きマイナスとなる。
- 対前々年同月比でみると、未就学者は1日当たり医療費の増加で4月はマイナスなるも5月はプラス。医科診療所の小児科はプラスとなるも、耳鼻咽喉科はマイナスとなった。都道府県間の状況を見ると、首都圏は伸び率が大きくなっている。

(参考) 診療種類別 医療費の伸び率 (対前年同期比) (%)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
			3月	4月	5月
総計	2.4	-3.2	5.5	10.6	11.5
入院	2.0	-3.4	1.1	6.5	8.7
入院外	2.0	-4.4	10.0	18.4	16.1
歯科	1.9	-0.8	9.8	25.4	21.8
調剤	3.6	-2.7	4.6	0.5	5.3

(参考) 診療種類別 医療費の伸び率 (対前々年同期比) (%)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
			3月	4月	5月
総計	3.2	-1.0	4.3	0.8	-1.8
入院	4.0	-1.5	1.8	-0.4	-2.2
入院外	3.1	-2.4	5.4	2.2	-1.8
歯科	3.9	1.1	6.6	6.2	2.5
調剤	0.4	0.9	5.2	-2.6	-3.9

医療費の動向 令和3年度4月～5月 ①総計

- 令和3年度4月～5月の概算医療費の対前年同月比を見ると、4月は10.6%、5月は11.5%と大きく増加しているが、対前々年同月比を見ると、4月は0.8%、5月は▲1.8%となり、令和元年度の3.2%の伸びに比べると小さい伸びとなっている。
- 受診延日数についても、対前年同月比は4月は15.0%、5月は12.8%と高い伸びとなっているが、対前々年同月比で見ると、4月は▲5.6%、5月は▲8.1%と令和2年度からの減少傾向が継続。
- 1日当たり医療費は、対前々年同月比で見ると、増加幅は小さくなるも増加傾向が継続。

■ 総計の伸び率（対前年同期比）

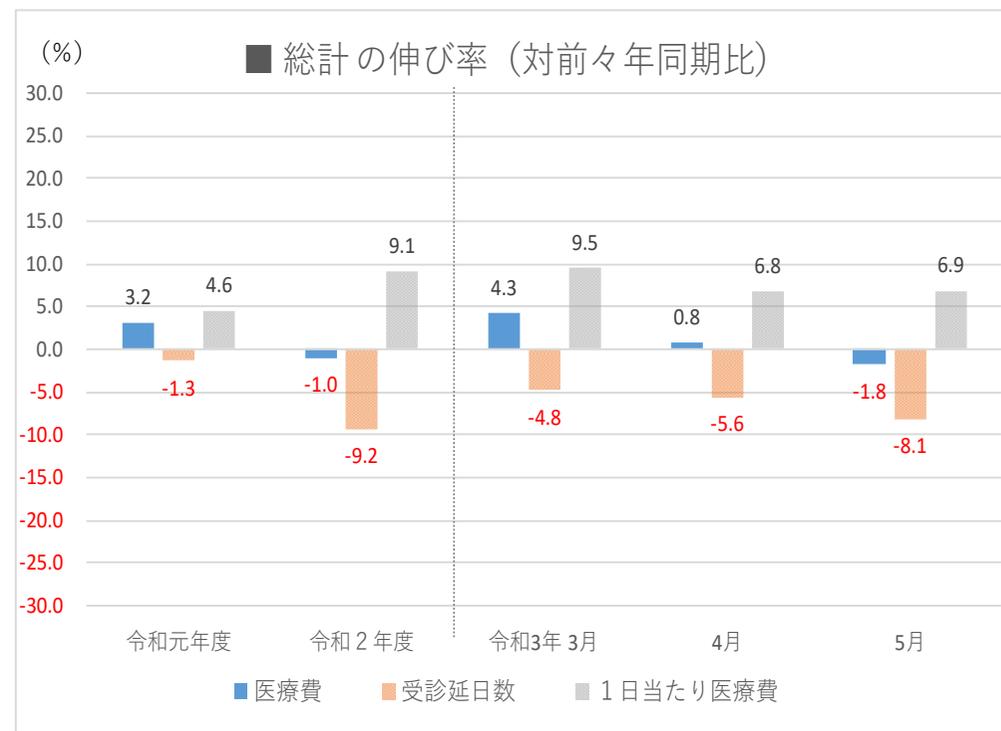
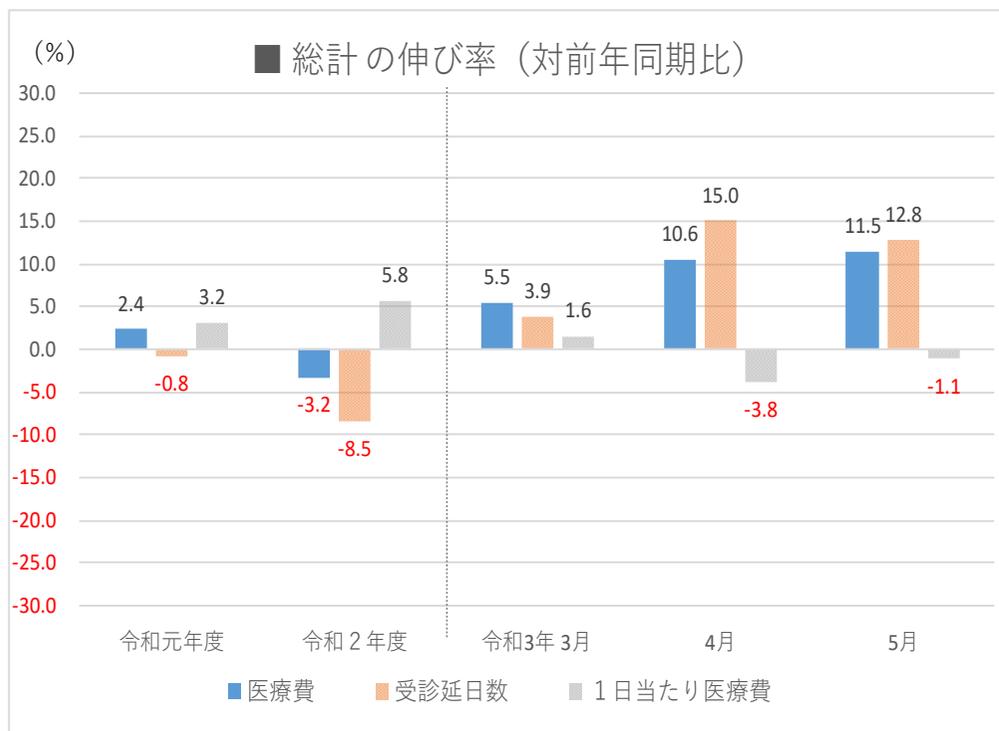
（単位：％）

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
医療費	2.4	-3.2	5.5	10.6	11.5
受診延日数	-0.8	-8.5	3.9	15.0	12.8
1日当たり医療費	3.2	5.8	1.6	-3.8	-1.1

■ 総計の伸び率（対前々年同期比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
医療費	3.2	-1.0	4.3	0.8	-1.8
受診延日数	-1.3	-9.2	-4.8	-5.6	-8.1
1日当たり医療費	4.6	9.1	9.5	6.8	6.9

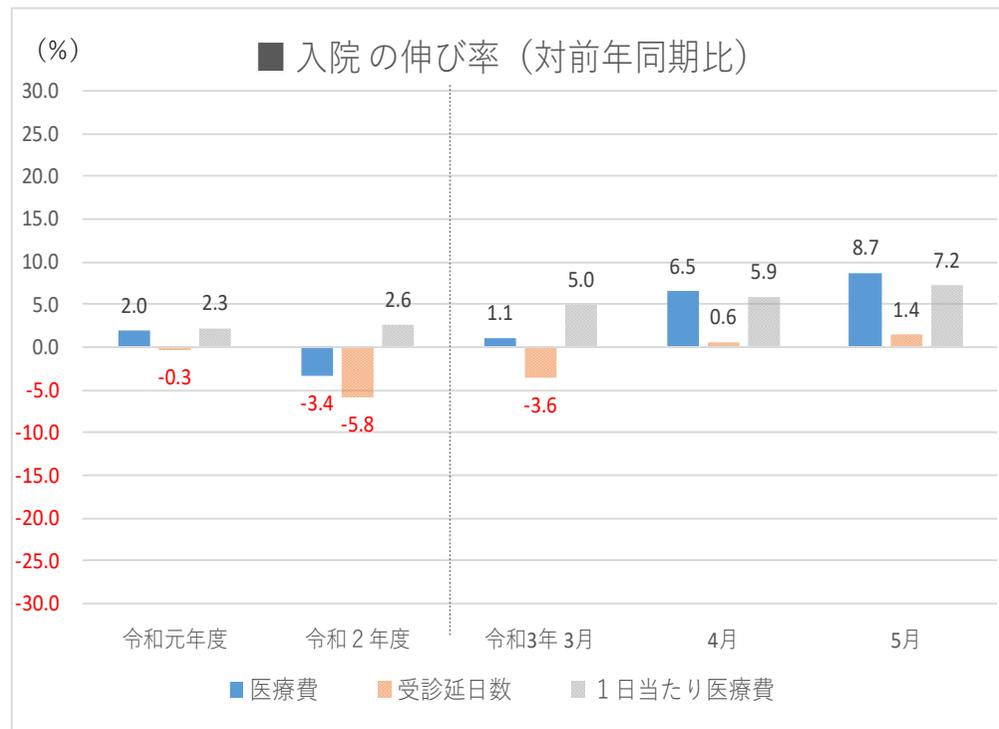


医療費の動向 令和3年度4月～5月 ②-1 診療種別（入院）

- 入院医療費は、対前年同月比は4月・5月ともに増加するも、対前々年同月比ではともに減少している。
- 受診延日数は、対前年同月比で微増となっているが、対前々年同月比で見ると、4月、5月ともに▲6～7%程度と令和2年度と同程度の減少。
- 1日当たり医療費は、対前年同月比、対前々年同月比ともに6～7%程度で推移。

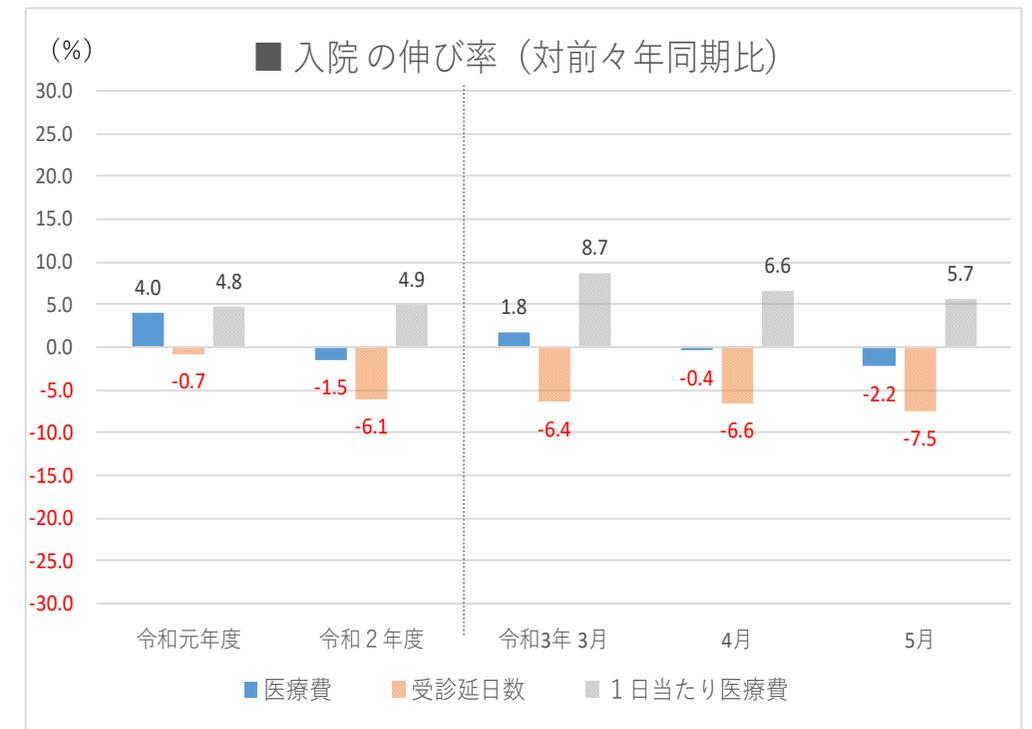
■ 入院の伸び率（対前年同期比） (単位：%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
医療費	2.0	-3.4	1.1	6.5	8.7
受診延日数	-0.3	-5.8	-3.6	0.6	1.4
1日当たり医療費	2.3	2.6	5.0	5.9	7.2



■ 入院の伸び率（対前々年同期比） (単位：%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
医療費	4.0	-1.5	1.8	-0.4	-2.2
受診延日数	-0.7	-6.1	-6.4	-6.6	-7.5
1日当たり医療費	4.8	4.9	8.7	6.6	5.7

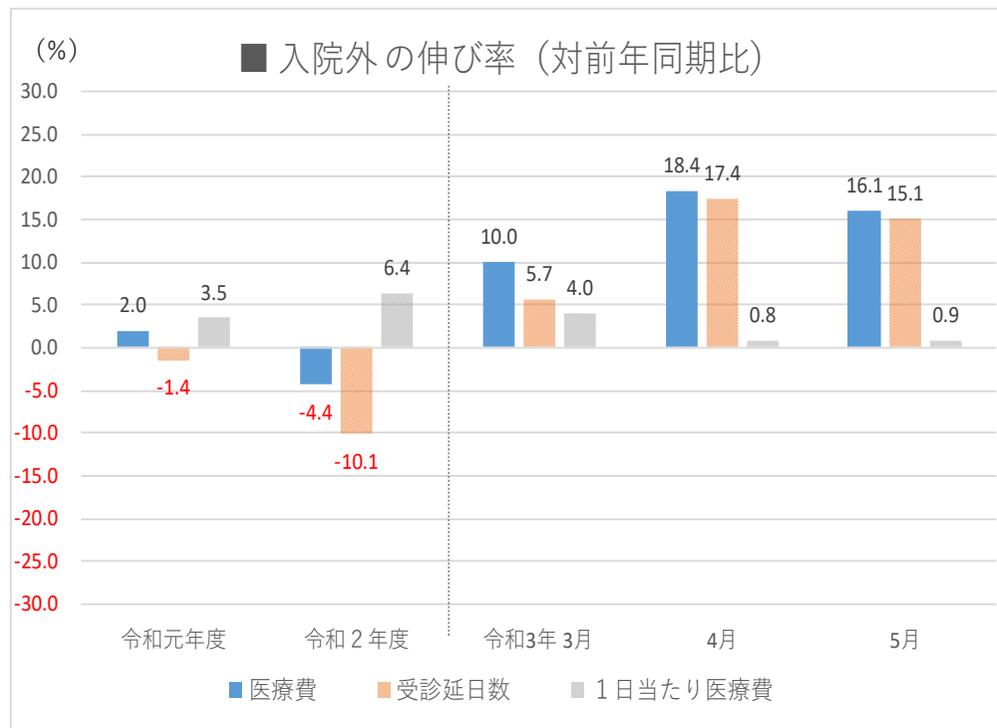


医療費の動向 令和3年度4月～5月 ②-2 診療種別（入院外）

- 入院外医療費は、対前年同月比で4月は18.4%、5月は16.1%の増加となるも、対前々年度同月比では4月は2.2%、5月は▲1.8%と令和元年度の伸び比べ、小さい伸びとなっている。
- 受診延日数についても、対前年同月比は大きく増加するも、対前々年同月比では▲6～9%程度と減少傾向が続いている。
- 1日当たり医療費は、対前々年同月比では8～9%で推移。

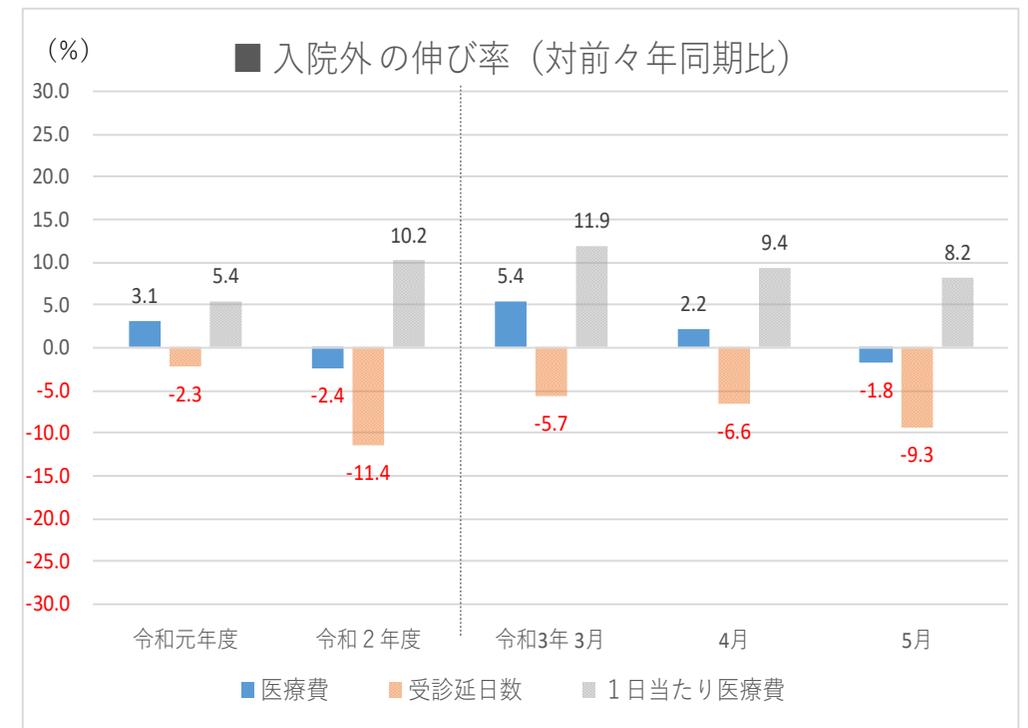
■ 入院外の伸び率（対前年同期比） (単位：%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
医療費	2.0	-4.4	10.0	18.4	16.1
受診延日数	-1.4	-10.1	5.7	17.4	15.1
1日当たり医療費	3.5	6.4	4.0	0.8	0.9



■ 入院外の伸び率（対前々年同期比） (単位：%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
医療費	3.1	-2.4	5.4	2.2	-1.8
受診延日数	-2.3	-11.4	-5.7	-6.6	-9.3
1日当たり医療費	5.4	10.2	11.9	9.4	8.2

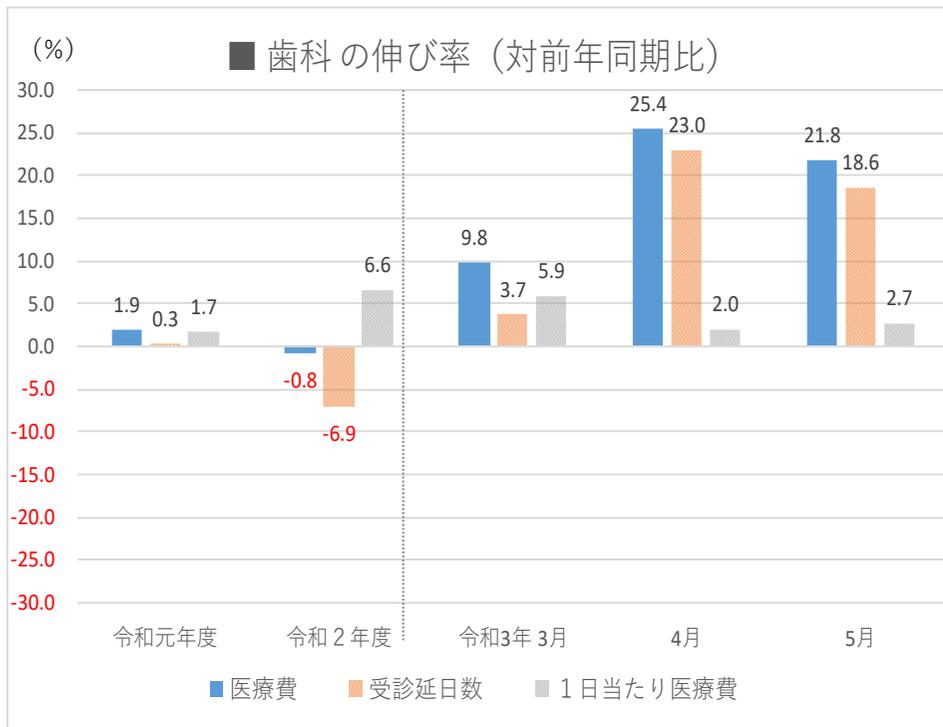


医療費の動向 令和3年度4月～5月 ②-3 診療種別（歯科）

- 歯科医療費は、対前年同月比で見ると4月は25.4%、5月は21.8%、対前々年度同月比で見ると4月は6.2%、5月は2.5%といずれで見てもプラスで推移している。
- 受診延日数についても、対前年同月比は大きく増加するも、対前々年同月比では▲3～7%程度と減少傾向が続いている。
- 1日当たり医療費は、対前々年同月比では9～10%で推移。

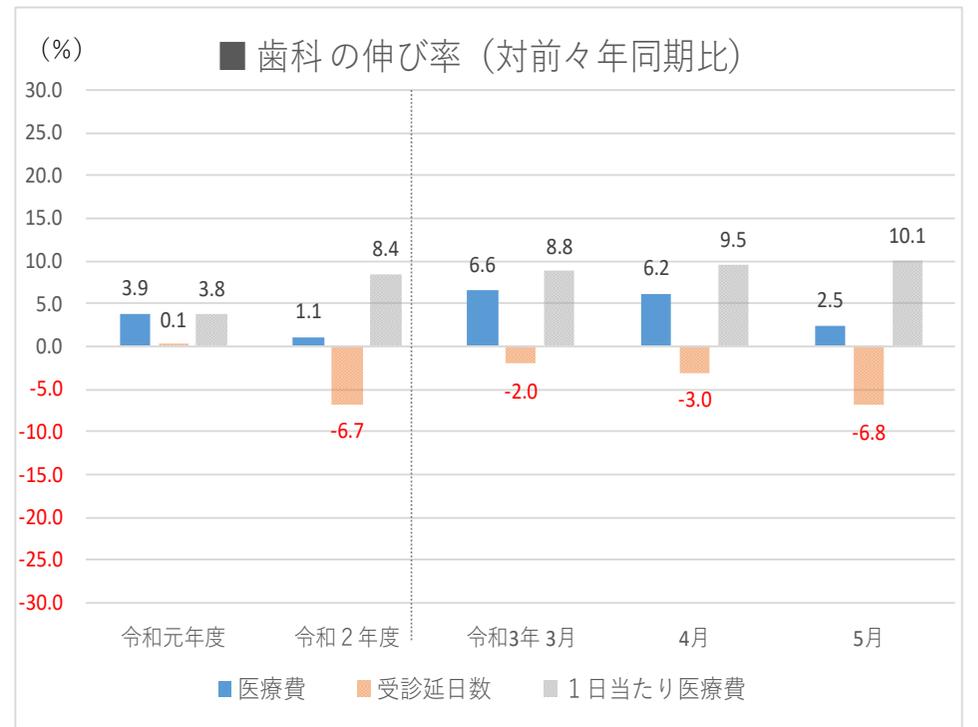
■ 歯科の伸び率（対前年同期比） (単位：%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
医療費	1.9	-0.8	9.8	25.4	21.8
受診延日数	0.3	-6.9	3.7	23.0	18.6
1日当たり医療費	1.7	6.6	5.9	2.0	2.7



■ 歯科の伸び率（対前々年同期比） (単位：%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
医療費	3.9	1.1	6.6	6.2	2.5
受診延日数	0.1	-6.7	-2.0	-3.0	-6.8
1日当たり医療費	3.8	8.4	8.8	9.5	10.1

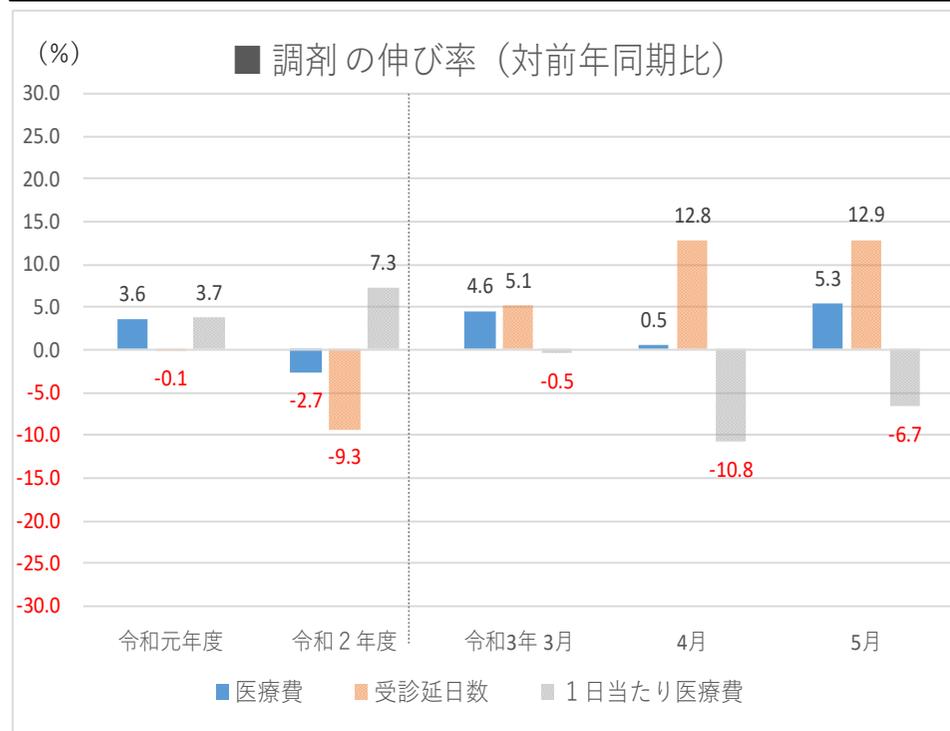


医療費の動向 令和3年度4月～5月 ②-4 診療種別（調剤）

- 調剤医療費は、対前年同月比で4月は0.5%、5月は5.3%の増加となるも、対前々年度同月比では4月は▲2.6%、5月は▲3.9%とマイナスの伸びとなっている。
- 受診延日数についても、対前年同月比は大きく増加するも、対前々年度同月比では▲5～8%程度と減少傾向が続いている。
- 1日当たり医療費は、対前々年度同月比では3～4%程度で推移。

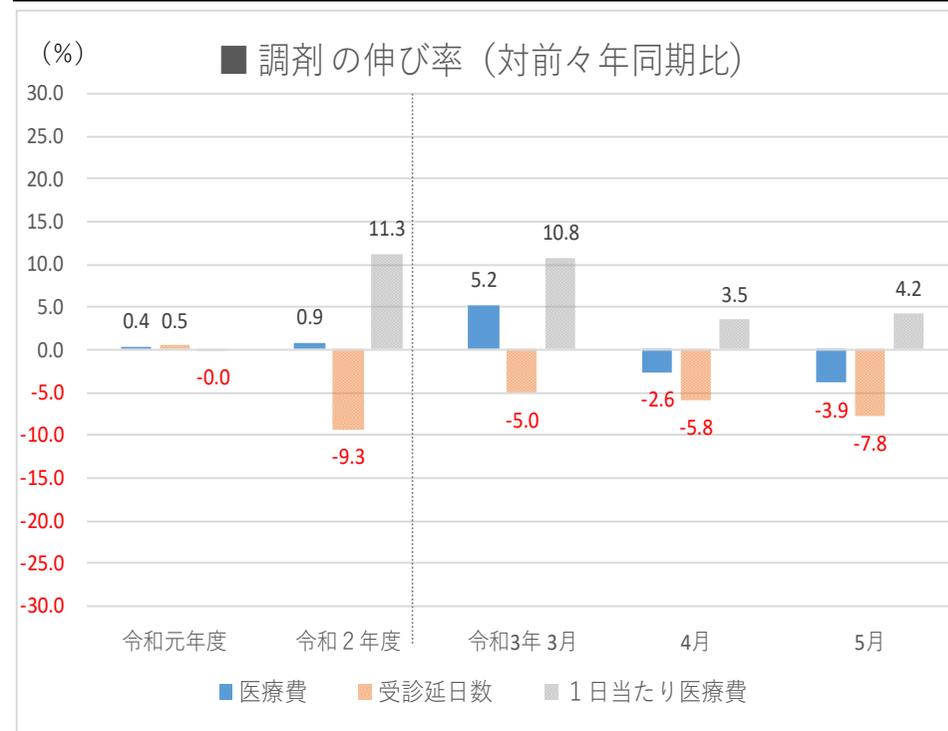
■ 調剤の伸び率（対前年同期比） (単位：%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
医療費	3.6	-2.7	4.6	0.5	5.3
受診延日数 ※	-0.1	-9.3	5.1	12.8	12.9
1日当たり医療費	3.7	7.3	-0.5	-10.8	-6.7



■ 調剤の伸び率（対前々年同期比） (単位：%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
医療費	0.4	0.9	5.2	-2.6	-3.9
受診延日数 ※	0.5	-9.3	-5.0	-5.8	-7.8
1日当たり医療費	-0.0	11.3	10.8	3.5	4.2



※受診延日数は「処方せん枚数（受付回数）」を集計したもの

医療費の動向 令和3年度4月～5月 ③-1 年齢階層別（75歳以上）

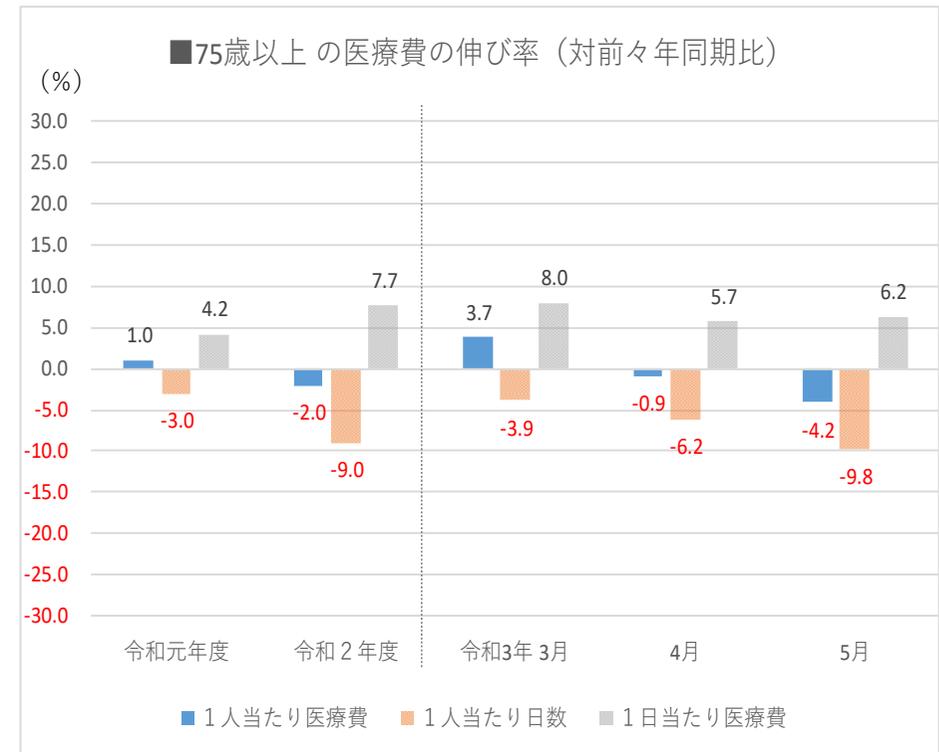
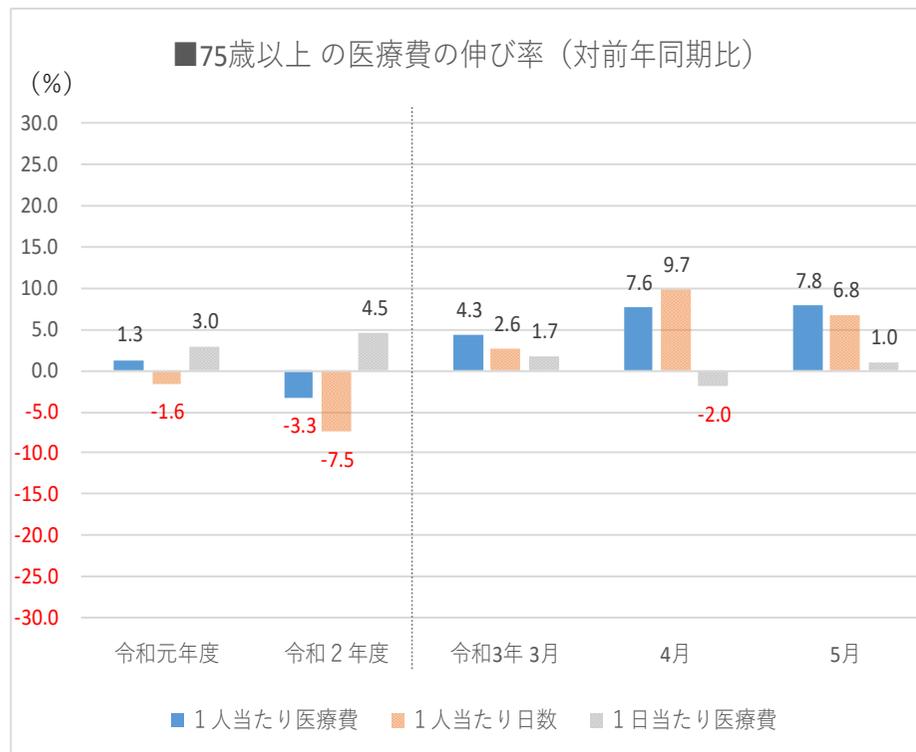
- 75歳以上の医療費は、対前年同月比で4月は7.6%、5月は7.8%の増加となるも、対前々年度同月比では4月は▲0.9%、5月は▲4.2%とマイナスの伸びとなっている。
- 受診延日数についても、対前年同月比は増加するも、対前々年同月比では▲6～10%程度の減少傾向が継続。
- 1日当たり医療費は、対前々年同月比では5～6%程度で推移。

■ 75歳以上の医療費の伸び率（対前年同期比） (単位：%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
1人当たり医療費	1.3	-3.3	4.3	7.6	7.8
1人当たり日数	-1.6	-7.5	2.6	9.7	6.8
1日当たり医療費	3.0	4.5	1.7	-2.0	1.0

■ 75歳以上の医療費の伸び率（対前々年同期比） (単位：%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
1人当たり医療費	1.0	-2.0	3.7	-0.9	-4.2
1人当たり日数	-3.0	-9.0	-3.9	-6.2	-9.8
1日当たり医療費	4.2	7.7	8.0	5.7	6.2



医療費の動向 令和3年度4月～5月 ③-2 年齢階層別（75歳未満）

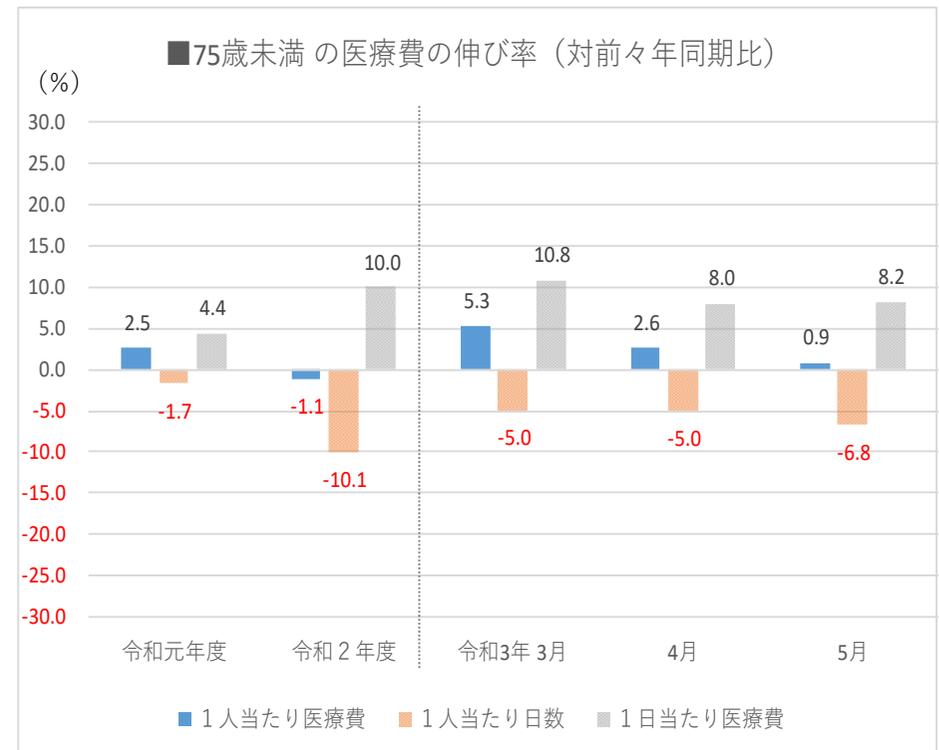
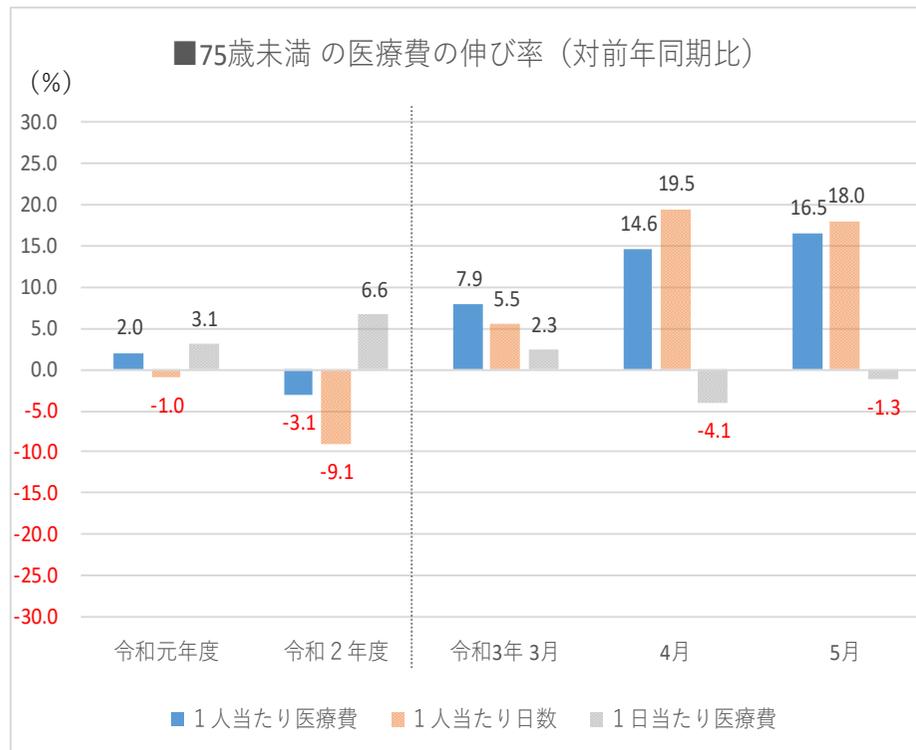
- 75歳未満の医療費の対前年同月比、対前々年度同月比は、ともに75歳以上よりも大きくなっている。
- 1人当たり日数について、75歳以上と比べて対前年同月比は大きく増加するも、対前々年同月比では▲5～7%程度と大きな差異はない。
- 1日当たり医療費は、75歳以上と比べて対前年同月比、対前々年同月比の変動幅が大きい。

■75歳未満の医療費の伸び率（対前年同期比）（単位：%）

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
1人当たり医療費	2.0	-3.1	7.9	14.6	16.5
1人当たり日数	-1.0	-9.1	5.5	19.5	18.0
1日当たり医療費	3.1	6.6	2.3	-4.1	-1.3

■75歳未満の医療費の伸び率（対前々年同期比）（単位：%）

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
1人当たり医療費	2.5	-1.1	5.3	2.6	0.9
1人当たり日数	-1.7	-10.1	-5.0	-5.0	-6.8
1日当たり医療費	4.4	10.0	10.8	8.0	8.2



医療費の動向 令和3年度4月～5月 ③-3 年齢階層別（75歳未満（未就学者除く））

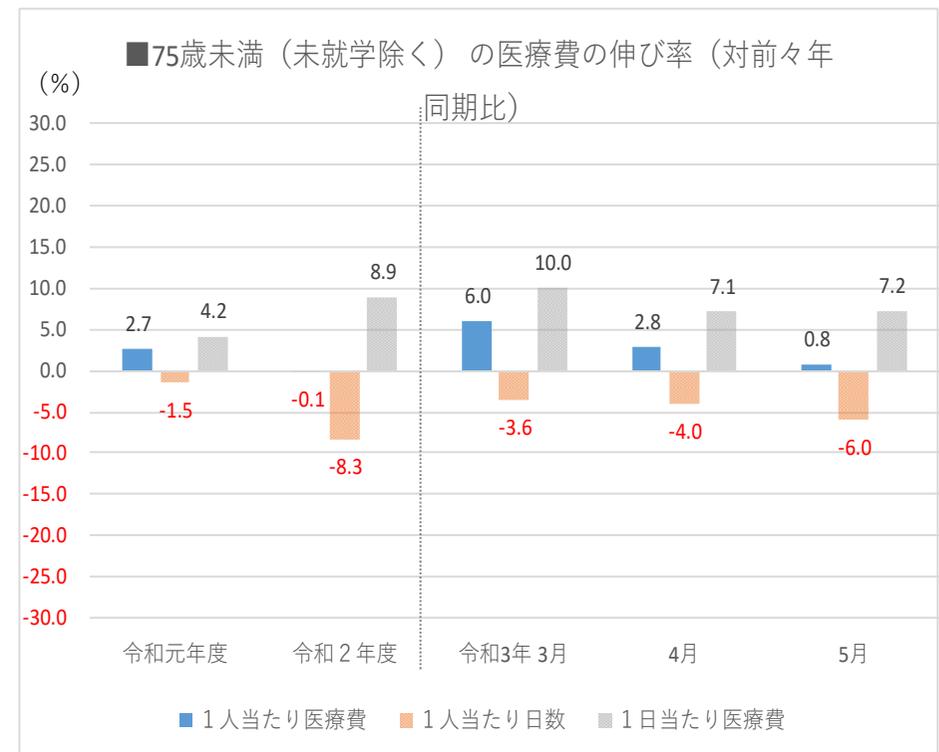
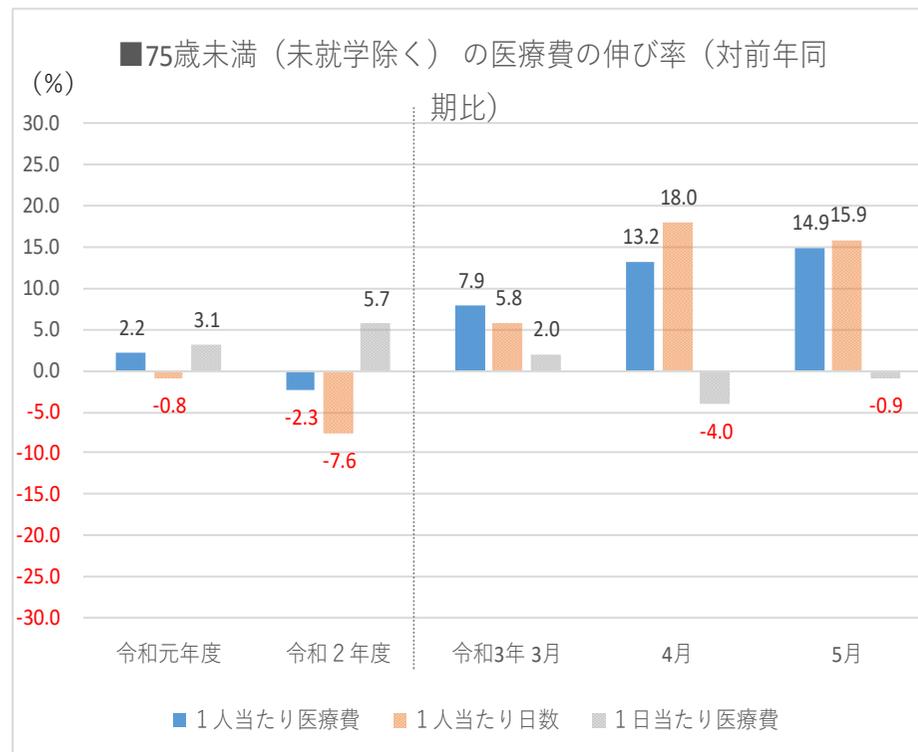
- 未就学者を除くと、1人当たり医療費の対前年同月比はわずかに小さくなり、対前々年同月比は4月は大きくなるも、5月は小さくなる。
- 1人当たり日数についても、対前年同月比の増加幅、対前々年同月比の減少幅は小さくなる。
- 1日当たり医療費は、対前年同月比、対前々年同月比の変動幅は小さくなる。

■ 75歳未満（未就学除く）の医療費の伸び率（対前年同期比）（単位：％）

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
1人当たり医療費	2.2	-2.3	7.9	13.2	14.9
1人当たり日数	-0.8	-7.6	5.8	18.0	15.9
1日当たり医療費	3.1	5.7	2.0	-4.0	-0.9

■ 75歳未満（未就学除く）の医療費の伸び率（対前々年同期比）（単位：％）

	令和元年度	令和2年度			令和3年度	
			3月	4月	5月	
1人当たり医療費	2.7	-0.1	6.0	2.8	0.8	
1人当たり日数	-1.5	-8.3	-3.6	-4.0	-6.0	
1日当たり医療費	4.2	8.9	10.0	7.1	7.2	



医療費の動向 令和3年度4月～5月 ③-4 年齢階層別（未就学者）

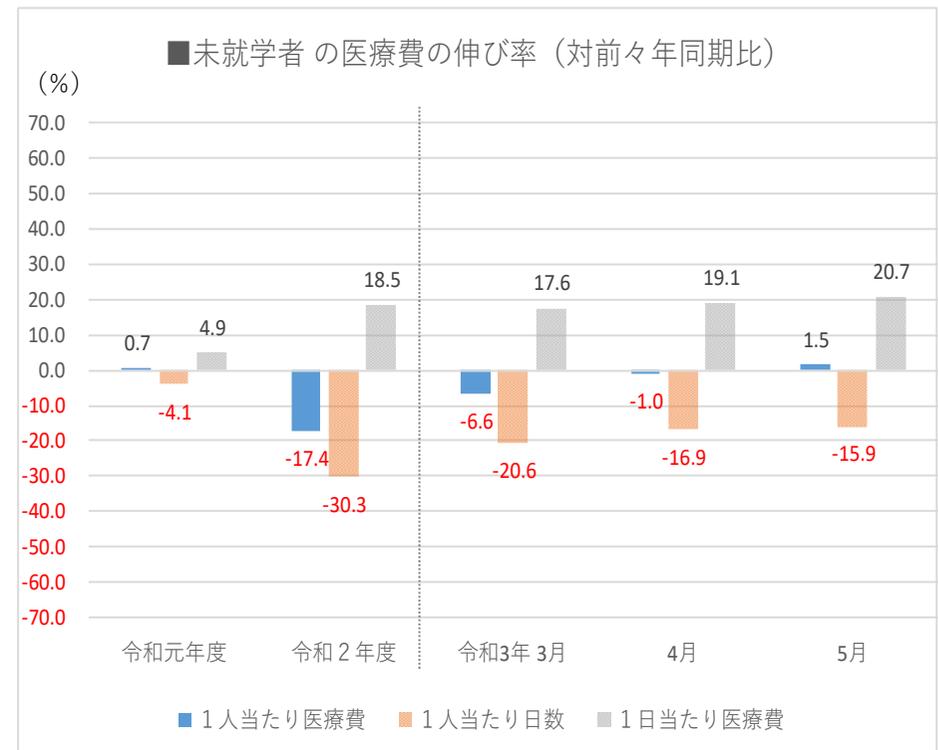
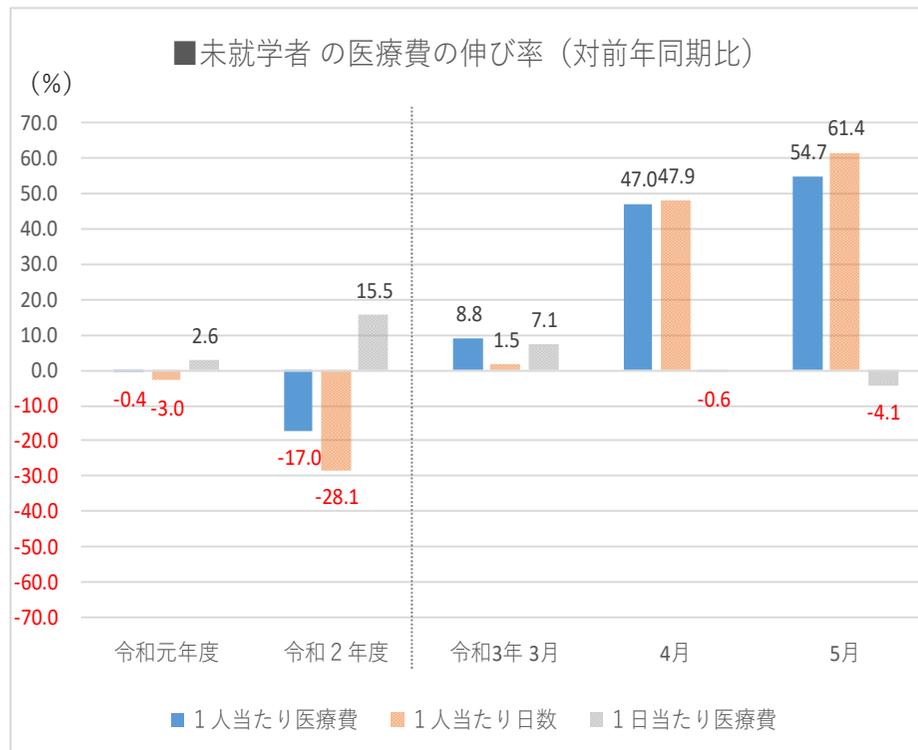
- 未就学者の1人当たり医療費は、対前年同月比で4月は47.0%、5月は54.7%と大きく増加となるも、対前々年度同月比では4月は▲1.0%、5月は1.5%となる。
- 1人当たり日数について、対前年同月比は大きく増加するも、対前々年同月比では15%を超える大きな減少となっている。
- 1日当たり医療費は、対前々年同月比では19～21%程度と大きく増加。

■未就学者の医療費の伸び率（対前年同期比） (単位：%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
1人当たり医療費	-0.4	-17.0	8.8	47.0	54.7
1人当たり日数	-3.0	-28.1	1.5	47.9	61.4
1日当たり医療費	2.6	15.5	7.1	-0.6	-4.1

■未就学者の医療費の伸び率（対前々年同期比） (単位：%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
1人当たり医療費	0.7	-17.4	-6.6	-1.0	1.5
1人当たり日数	-4.1	-30.3	-20.6	-16.9	-15.9
1日当たり医療費	4.9	18.5	17.6	19.1	20.7



医療費の動向 令和3年度4月～5月 ④主たる診療科別

- 入院外について、主たる診療科別に医療費の伸び率を見ると、対前年同月比で小児科が70～100%程度、耳鼻咽喉科が40%～50%程度と非常に大きく増加するも、対前々年同月比では小児科は4～8%に留まり、耳鼻咽喉科は▲14～▲17%程度の減少となる。
- 受診延日数について、小児科、耳鼻咽喉科は、対前年同月比は大きく増加するも、対前々年同月比では15%を超える減少。
- 1日当たり医療費は、対前年同月比、対前々年同月比ともに、ほとんどの診療科でプラスとなり、対前々年同月比では小児科が25%を超える増加。

■ 伸び率（対前年同期比） (単位：%)

	令和元年度	令和2年度		令和2年度		
			3月	4月	5月	
医療費	医科診療所	0.8	▲ 5.4	10.0	20.5	16.8
	内科	0.4	▲ 4.3	8.0	14.4	13.7
	小児科	0.1	▲22.2	24.4	69.2	95.8
	外科	▲ 1.3	▲12.0	▲ 1.8	6.3	2.2
	整形外科	1.8	▲ 3.4	12.8	27.4	15.6
	皮膚科	1.9	▲ 0.8	5.1	22.5	3.7
	産婦人科	1.4	0.0	13.6	26.7	19.6
	眼科	2.3	▲ 3.3	14.5	29.5	24.2
	耳鼻咽喉科	▲ 2.7	▲19.7	17.9	49.3	39.2
	その他	2.3	▲ 1.5	9.6	16.5	12.0
受診延日数	医科診療所	▲ 1.3	▲10.2	5.9	18.6	15.5
	内科	▲ 1.7	▲10.1	3.3	10.6	13.0
	小児科	▲ 2.2	▲31.5	6.2	44.4	73.5
	外科	▲ 4.6	▲15.4	▲ 4.7	3.4	▲ 0.9
	整形外科	▲ 1.0	▲ 6.7	11.6	29.6	17.4
	皮膚科	1.2	▲ 0.9	3.2	18.0	1.4
	産婦人科	0.8	▲ 3.9	9.0	22.0	17.2
	眼科	▲ 1.3	▲ 7.3	8.4	29.0	22.0
	耳鼻咽喉科	▲ 4.3	▲24.4	6.8	29.8	27.5
	その他	1.4	▲ 3.0	8.0	14.4	11.6
1日当たり医療費	医科診療所	2.1	5.3	3.9	1.6	1.1
	内科	2.1	6.4	4.5	3.4	0.6
	小児科	2.3	13.5	17.2	17.2	12.8
	外科	3.5	4.0	3.0	2.8	3.1
	整形外科	2.8	3.5	1.1	▲ 1.7	▲ 1.5
	皮膚科	0.6	0.1	1.8	3.8	2.2
	産婦人科	0.6	4.1	4.2	3.9	2.1
	眼科	3.6	4.3	5.6	0.4	1.8
	耳鼻咽喉科	1.7	6.3	10.3	15.0	9.2
	その他	0.8	1.6	1.5	1.9	0.3

■ 伸び率（対前々年同期比） (単位：%)

	令和元年度	令和2年度		令和2年度		
			3月	4月	5月	
医療費	医科診療所	1.1	▲ 4.6	1.2	0.9	▲ 1.5
	内科	0.3	▲ 4.0	2.0	1.1	▲ 0.1
	小児科	▲ 1.0	▲22.2	▲ 3.4	4.3	7.9
	外科	▲ 5.2	▲13.1	▲12.3	▲13.3	▲15.4
	整形外科	2.2	▲ 1.7	5.7	4.1	▲ 1.6
	皮膚科	2.4	1.0	2.4	3.9	▲ 2.5
	産婦人科	1.7	1.4	8.6	7.9	5.5
	眼科	5.3	▲ 1.1	5.7	3.9	▲ 2.4
	耳鼻咽喉科	▲ 1.2	▲21.8	▲18.5	▲14.3	▲16.6
	その他	3.6	0.8	6.5	3.6	0.8
受診延日数	医科診療所	▲ 2.0	▲11.3	▲ 6.8	▲ 6.3	▲ 8.0
	内科	▲ 2.5	▲11.6	▲ 6.3	▲ 6.7	▲ 7.3
	小児科	▲ 4.4	▲33.0	▲21.1	▲17.4	▲15.1
	外科	▲ 9.9	▲19.3	▲18.5	▲18.6	▲21.0
	整形外科	▲ 1.6	▲ 7.6	0.5	0.2	▲ 5.0
	皮膚科	1.7	0.3	0.7	1.2	▲ 3.7
	産婦人科	▲ 0.1	▲ 3.1	2.8	2.6	1.0
	眼科	▲ 1.1	▲ 8.5	▲ 5.1	▲ 4.2	▲ 7.3
	耳鼻咽喉科	▲ 4.3	▲27.7	▲26.0	▲25.1	▲25.4
	その他	2.4	▲ 1.6	3.5	1.6	▲ 0.1
1日当たり医療費	医科診療所	3.1	7.6	8.6	7.7	7.1
	内科	2.9	8.7	9.0	8.4	7.8
	小児科	3.6	16.1	22.4	26.3	27.1
	外科	5.2	7.6	7.6	6.5	7.1
	整形外科	3.8	6.4	5.2	3.9	3.5
	皮膚科	0.6	0.7	1.7	2.6	1.3
	産婦人科	1.8	4.7	5.6	5.2	4.4
	眼科	6.5	8.1	11.5	8.5	5.3
	耳鼻咽喉科	3.3	8.1	10.1	14.3	11.9
	その他	1.2	2.4	2.9	1.9	0.9

医療費の動向 令和3年度4月～5月 ⑤都道府県別

- 都道府県別に概算医療費の伸び率を見ると、対前年同月比、対前々年同月比ともに千葉県や埼玉県などの首都圏の伸び率が高い。
- データの散らばりの度合いを表す分散を見ると、対前年同月比では令和3年4月、5月は大きくなっているが、対前々年同月比では大きくなるものの増え方は限定的。

■ 都道府県別 概算医療費の対前年同期比 (%)

	概算医療費				
	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
		3月	4月	5月	
全国	2.4	▲ 3.2	5.5	10.6	11.5
北海道	2.0	▲ 3.8	6.2	6.1	7.2
青森県	1.0	▲ 3.1	1.1	5.1	5.7
岩手県	1.0	▲ 2.1	3.1	3.5	5.7
宮城県	2.2	▲ 2.6	5.3	7.2	11.2
秋田県	1.3	▲ 2.7	3.1	3.4	4.8
山形県	1.2	▲ 3.8	2.6	7.5	9.9
福島県	1.3	▲ 3.9	2.0	2.8	7.2
茨城県	2.2	▲ 3.2	3.9	10.5	11.0
栃木県	2.6	▲ 2.1	6.8	8.9	10.9
群馬県	1.7	▲ 2.7	6.6	11.7	12.2
埼玉県	3.1	▲ 2.7	6.8	15.2	14.8
千葉県	2.6	▲ 2.2	7.5	14.7	16.8
東京都	2.8	▲ 4.8	7.1	20.0	19.4
神奈川県	3.0	▲ 3.1	8.4	17.5	18.2
新潟県	1.6	▲ 3.3	3.6	4.7	5.5
富山県	2.3	▲ 3.1	4.7	9.7	14.4
石川県	1.8	▲ 4.4	4.9	10.1	10.2
福井県	1.8	▲ 4.4	4.9	13.4	14.0
山梨県	1.4	▲ 2.8	7.5	10.6	10.4
長野県	2.2	▲ 2.2	5.5	6.5	8.9
岐阜県	1.4	▲ 3.5	5.0	11.4	9.6
静岡県	2.4	▲ 2.2	5.8	7.5	9.6
愛知県	2.9	▲ 2.6	7.4	12.4	12.1
三重県	2.3	▲ 3.5	4.5	7.1	8.3

	概算医療費				
	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
		3月	4月	5月	
滋賀県	2.7	▲ 3.6	5.7	6.9	11.2
京都府	2.9	▲ 3.6	5.3	10.1	12.4
大阪府	2.9	▲ 3.3	5.7	10.3	10.9
兵庫県	2.3	▲ 3.7	5.6	10.8	12.0
奈良県	3.0	▲ 3.2	4.8	8.2	11.5
和歌山県	2.8	▲ 3.1	4.6	7.5	7.4
鳥取県	1.6	▲ 2.0	4.0	5.0	5.6
島根県	2.1	▲ 2.7	3.2	3.8	7.9
岡山県	2.4	▲ 3.2	4.0	6.0	7.4
広島県	2.0	▲ 3.0	4.4	7.1	8.8
山口県	1.1	▲ 2.8	3.9	5.0	7.2
徳島県	2.0	▲ 2.0	2.3	1.6	4.6
香川県	2.1	▲ 3.4	3.3	6.8	10.4
愛媛県	2.5	▲ 3.4	2.8	5.1	7.0
高知県	0.7	▲ 2.4	4.7	5.4	5.9
福岡県	2.2	▲ 3.7	3.8	12.4	13.1
佐賀県	1.6	▲ 2.0	4.3	5.4	5.9
長崎県	1.1	▲ 3.0	2.9	3.9	2.8
熊本県	1.9	▲ 2.3	5.3	7.2	7.0
大分県	1.8	▲ 3.0	4.6	8.3	5.5
宮崎県	1.9	▲ 3.0	3.3	5.3	4.1
鹿児島県	2.3	▲ 2.2	2.5	4.2	3.2
沖縄県	3.2	▲ 3.9	2.5	10.1	9.8

最大:	3.2	▲ 2.0	8.4	20.0	19.4
	沖縄県	徳島県	神奈川県	東京都	東京都
最小:	0.7	▲ 4.8	1.1	1.6	2.8
	高知県	東京都	青森県	徳島県	長崎県
分散*:	0.4	0.5	2.7	15.4	14.4

■ 都道府県別 概算医療費の対前々年同期比 (%)

	概算医療費				
	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
		3月	4月	5月	
全国	3.2	▲ 1.0	4.3	0.8	▲ 1.8
北海道	2.3	▲ 1.9	4.1	▲ 0.8	▲ 5.3
青森県	1.0	▲ 2.1	2.8	▲ 0.8	▲ 3.2
岩手県	0.8	▲ 1.1	4.2	▲ 0.3	▲ 2.0
宮城県	2.8	▲ 0.5	5.0	▲ 0.2	▲ 0.6
秋田県	0.7	▲ 1.4	3.7	▲ 1.1	▲ 4.2
山形県	1.3	▲ 2.7	2.2	▲ 1.5	▲ 2.6
福島県	1.3	▲ 2.7	0.3	▲ 3.6	▲ 5.5
茨城県	2.4	▲ 1.1	3.0	0.4	▲ 1.0
栃木県	3.0	0.4	6.7	2.6	0.5
群馬県	2.2	▲ 1.0	4.8	3.0	▲ 1.0
埼玉県	4.4	0.3	5.2	2.9	1.4
千葉県	3.9	0.3	5.9	3.4	1.9
東京都	4.2	▲ 2.1	3.7	1.0	▲ 0.8
神奈川県	4.7	▲ 0.1	6.3	3.4	1.8
新潟県	1.5	▲ 1.8	3.1	▲ 0.9	▲ 4.7
富山県	3.3	▲ 0.9	4.7	2.7	▲ 1.9
石川県	2.4	▲ 2.7	4.1	▲ 0.7	▲ 5.2
福井県	2.8	▲ 2.6	3.8	▲ 1.9	▲ 3.7
山梨県	1.1	▲ 1.4	5.0	0.6	▲ 1.5
長野県	3.2	▲ 0.1	4.4	0.2	▲ 2.1
岐阜県	1.6	▲ 2.1	2.6	▲ 0.5	▲ 1.4
静岡県	2.9	0.2	5.1	1.3	▲ 1.1
愛知県	4.4	0.2	5.3	3.4	▲ 0.0
三重県	3.2	▲ 1.3	3.4	▲ 0.4	▲ 3.3

	概算医療費				
	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
		3月	4月	5月	
滋賀県	3.4	▲ 0.9	4.1	▲ 1.8	▲ 3.3
京都府	3.8	▲ 0.8	4.7	1.0	▲ 2.2
大阪府	3.9	▲ 0.5	4.7	0.1	▲ 3.7
兵庫県	3.7	▲ 1.5	3.6	▲ 0.7	▲ 3.2
奈良県	4.4	▲ 0.3	5.1	▲ 0.5	▲ 1.4
和歌山県	2.6	▲ 0.4	2.8	▲ 0.3	▲ 4.3
鳥取県	2.5	▲ 0.4	4.8	▲ 0.5	▲ 2.8
島根県	2.0	▲ 0.7	3.7	▲ 1.0	▲ 2.2
岡山県	2.5	▲ 0.9	3.2	▲ 0.1	▲ 3.9
広島県	2.0	▲ 1.0	4.4	0.6	▲ 2.5
山口県	0.9	▲ 1.7	2.8	▲ 0.9	▲ 3.5
徳島県	2.2	0.0	2.5	▲ 0.6	▲ 2.9
香川県	2.2	▲ 1.4	3.3	▲ 0.4	▲ 0.4
愛媛県	2.7	▲ 1.0	2.7	▲ 1.5	▲ 3.6
高知県	0.7	▲ 1.7	3.5	0.3	▲ 2.5
福岡県	3.3	▲ 1.6	4.5	1.4	▲ 1.1
佐賀県	2.2	▲ 0.4	3.6	1.4	▲ 2.1
長崎県	0.8	▲ 2.0	3.0	▲ 0.3	▲ 4.4
熊本県	2.0	▲ 0.4	4.5	1.4	▲ 2.6
大分県	2.4	▲ 1.2	2.9	0.7	▲ 4.0
宮崎県	1.8	▲ 1.2	2.8	0.4	▲ 2.9
鹿児島県	3.3	0.1	3.6	0.6	▲ 3.3
沖縄県	4.8	▲ 0.8	3.5	0.4	▲ 2.7

最大:	4.8	0.4	6.7	3.4	1.9
	沖縄県	栃木県	栃木県	千葉県	千葉県
最小:	0.7	▲ 2.7	0.3	▲ 3.6	▲ 5.5
	高知県	石川県	福島県	福島県	福島県
分散*:	1.3	0.7	1.3	2.3	3.1

※分散とは、データの散らばりの度合いを表す値

: 医療費の伸び率 上位10県
 : 医療費の伸び率 下位10県

医療費の動向 令和3年度4月～5月 ⑥休日数等の調整

- 休日数等の調整後の概算医療費の伸び率は、対前年同月比は4月が10.2%、5月が11.5%の増加となるが、対前々年同期比では、4月が▲1.9%、5月が▲2.5%と減少傾向が継続。

■診療種別医療費の伸び率（休日数等の補正後・対前年同期比）（単位：%）

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
				3月	4月
総計	2.9	-3.9	1.8	10.2	11.5
入院	2.1	-3.5	-0.9	6.3	8.7
入院外	2.8	-5.3	5.5	17.8	16.1
歯科	2.8	-1.8	5.3	24.1	21.8
調剤	4.6	-3.8	-0.8	0.3	5.3

<前年同期差（日）>

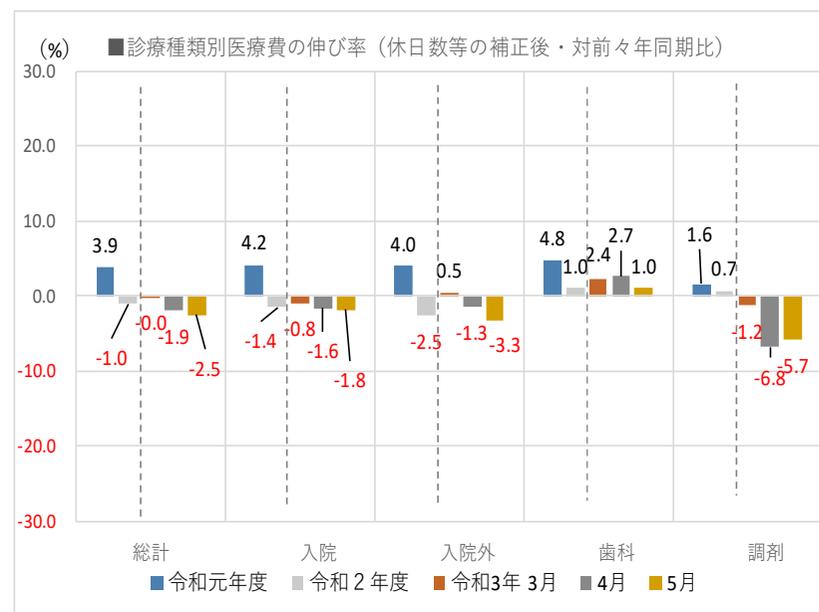
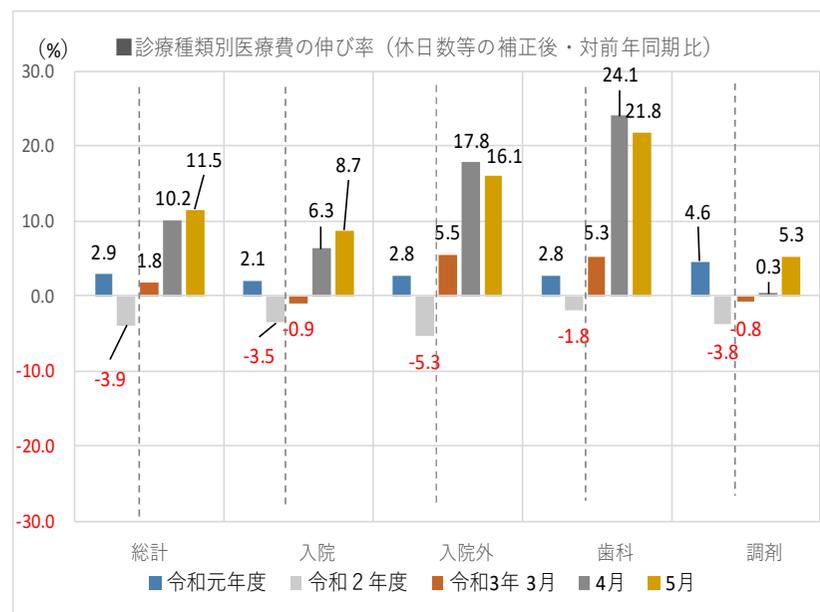
日曜・祭日等	+3	-4	-1	+0	+0
土曜	+2	+0	-1	+0	+0
休日でない木曜	+1	-1	+0	-1	+0

■診療種別医療費の伸び率（休日数等の補正後・対前々年同期比）（単位：%）

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
				3月	4月
総計	3.9	-1.0	-0.0	-1.9	-2.5
入院	4.2	-1.4	-0.8	-1.6	-1.8
入院外	4.0	-2.5	0.5	-1.3	-3.3
歯科	4.8	1.0	2.4	2.7	1.0
調剤	1.6	0.7	-1.2	-6.8	-5.7

<前々年同期差（日）>

日曜・祭日等	+4	-1	-1	-1	-1
土曜	+1	+2	-2	+0	+2
休日でない木曜	+0	+0	+1	+0	+0



※令和元年度、令和2年度は閏月の補正（月ベースで+3.6%、▲3.4%）を行っている。

電子レセプトを用いた医科(入院・入院外)医療費の分析 ＜令和3年度4月～5月＞

- ▶ レセプト電算処理システムにより処理された診療報酬明細書(電子レセプト)のうち医科入院、医科入院外分を用いて集計、医療費の動向について詳細を分析。
- ▶ ただし、電算化率の変動が医療費の伸び率に影響を与えること(電算化率は入院は95%程度、入院外は98%程度)に留意が必要。

- 年齢階級別では、入院・入院外ともに、対前年ではいずれの年齢層もプラスなるも、対前々年では「5歳以上10歳未満」などで減少。
- 疾病分類別では、入院・入院外ともに、対前年ではほとんどの疾病分類がプラスとなる一方で、対前々年では「呼吸器系の疾患」が減少傾向を示している。
- 診療内容別では、対前年では入院・入院外ともに多くの診療内容がプラスとなり、特に「検査・病理診断」が大きく増加している一方、対前々年でも「検査・病理診断」はプラスに影響し、入院では「手術・麻酔」が、入院外では「初診」がマイナスに影響している。

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和3年度4月～5月 ①年齢階級別

○ 入院・入院外ともに、対前年で見ると、いずれの年齢層もプラスとなっているが、対前々年度で見ると、「5歳以上 10歳未満」の減少幅が大きい。

対前年

■ 入院 1人当たり医療費の対前年伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
		3月	4月	5月	
総数	2.5	▲ 3.3	1.7	7.1	10.6
0歳以上 5歳未満	0.8	▲ 14.7	▲ 7.3	11.3	21.5
5歳以上 10歳未満	3.4	▲ 18.3	▲ 10.7	8.3	19.9
10歳以上 15歳未満	2.8	▲ 5.9	0.5	13.7	18.8
15歳以上 20歳未満	4.3	▲ 6.8	1.8	19.5	21.8
20歳以上 25歳未満	0.7	▲ 5.6	▲ 0.9	10.1	16.2
25歳以上 30歳未満	0.3	▲ 5.2	0.4	7.6	10.1
30歳以上 35歳未満	0.6	▲ 4.2	▲ 0.8	7.8	10.8
35歳以上 40歳未満	0.7	▲ 3.6	0.0	7.2	10.9
40歳以上 45歳未満	1.7	▲ 4.7	0.0	5.9	12.3
45歳以上 50歳未満	0.9	▲ 4.6	▲ 0.6	5.9	11.5
50歳以上 55歳未満	0.3	▲ 3.1	1.1	5.4	11.7
55歳以上 60歳未満	1.3	▲ 4.6	▲ 0.2	3.1	8.9
60歳以上 65歳未満	1.2	▲ 4.0	0.1	4.0	10.7
65歳以上 70歳未満	1.2	▲ 4.4	0.2	4.8	10.2
70歳以上 75歳未満	0.9	▲ 4.0	1.6	7.1	12.1
75歳以上 80歳未満	1.1	▲ 4.3	0.9	6.1	10.3
80歳以上 85歳未満	1.1	▲ 4.7	0.8	6.1	7.0
85歳以上 90歳未満	0.8	▲ 4.3	0.4	5.0	5.0
90歳以上 95歳未満	1.0	▲ 4.8	0.1	3.1	3.0
95歳以上 100歳未満	▲ 1.0	▲ 6.9	▲ 3.3	0.2	▲ 1.1
100歳以上	3.6	▲ 6.2	0.9	6.6	6.8

対前々年

■ 入院 1人当たり医療費の対前々年伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
		3月	4月	5月	
総数	4.8	▲ 0.8	3.0	0.6	▲ 1.3
0歳以上 5歳未満	4.0	▲ 14.0	▲ 8.0	▲ 10.2	▲ 4.2
5歳以上 10歳未満	8.3	▲ 15.6	▲ 14.9	▲ 17.8	▲ 12.9
10歳以上 15歳未満	6.2	▲ 3.3	3.0	▲ 0.2	0.3
15歳以上 20歳未満	9.0	▲ 2.8	3.6	3.4	1.9
20歳以上 25歳未満	1.5	▲ 5.0	▲ 2.4	▲ 1.2	▲ 3.2
25歳以上 30歳未満	1.1	▲ 4.9	▲ 0.7	▲ 2.6	▲ 3.8
30歳以上 35歳未満	1.3	▲ 3.5	0.5	0.1	▲ 1.6
35歳以上 40歳未満	2.0	▲ 3.0	1.2	▲ 0.5	▲ 2.4
40歳以上 45歳未満	1.4	▲ 3.1	1.6	▲ 0.5	▲ 0.6
45歳以上 50歳未満	0.8	▲ 3.7	0.2	▲ 2.2	▲ 2.3
50歳以上 55歳未満	0.7	▲ 2.8	2.1	▲ 1.6	▲ 0.9
55歳以上 60歳未満	1.7	▲ 3.3	0.4	▲ 2.5	▲ 3.2
60歳以上 65歳未満	1.6	▲ 2.9	1.9	▲ 1.2	▲ 1.9
65歳以上 70歳未満	1.8	▲ 3.2	1.2	▲ 1.1	▲ 3.0
70歳以上 75歳未満	0.6	▲ 3.1	2.0	▲ 0.6	▲ 2.7
75歳以上 80歳未満	2.1	▲ 3.3	0.8	▲ 1.6	▲ 4.0
80歳以上 85歳未満	1.6	▲ 3.7	▲ 0.2	▲ 2.1	▲ 5.3
85歳以上 90歳未満	1.6	▲ 3.5	▲ 1.0	▲ 3.2	▲ 5.4
90歳以上 95歳未満	1.7	▲ 3.8	▲ 1.7	▲ 4.6	▲ 6.7
95歳以上 100歳未満	▲ 1.9	▲ 7.9	▲ 6.1	▲ 8.2	▲ 11.7
100歳以上	3.7	▲ 2.8	0.1	▲ 1.5	▲ 2.3

※ 1人当たり医療費の算出にあたり、各年齢階級毎の人数は総務省統計局「人口推計」における5歳階級別人口を用いた。

■ 入院外 1人当たり医療費の対前年伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
		3月	4月	5月	
総数	2.4	▲ 4.0	10.5	19.0	17.1
0歳以上 5歳未満	▲ 1.5	▲ 23.8	20.4	89.3	121.5
5歳以上 10歳未満	▲ 0.9	▲ 19.0	18.1	51.9	55.2
10歳以上 15歳未満	▲ 0.4	▲ 11.5	30.7	59.5	58.6
15歳以上 20歳未満	2.0	▲ 3.9	23.4	53.9	48.7
20歳以上 25歳未満	0.4	▲ 0.9	16.0	39.1	36.6
25歳以上 30歳未満	0.6	▲ 3.3	12.3	31.9	30.4
30歳以上 35歳未満	1.9	▲ 4.2	12.2	29.5	30.5
35歳以上 40歳未満	1.5	▲ 4.4	11.2	25.2	26.4
40歳以上 45歳未満	2.7	▲ 4.0	10.7	21.7	20.9
45歳以上 50歳未満	2.2	▲ 3.2	10.1	18.6	16.8
50歳以上 55歳未満	2.1	▲ 3.1	9.4	16.9	14.6
55歳以上 60歳未満	2.8	▲ 3.2	8.0	14.3	12.6
60歳以上 65歳未満	2.2	▲ 3.3	8.1	13.5	11.5
65歳以上 70歳未満	2.3	▲ 3.7	8.6	13.0	11.5
70歳以上 75歳未満	1.5	▲ 3.4	8.8	13.6	11.1
75歳以上 80歳未満	1.3	▲ 4.2	7.4	12.6	9.8
80歳以上 85歳未満	1.7	▲ 4.2	8.4	13.6	9.2
85歳以上 90歳未満	1.3	▲ 3.7	7.6	12.4	7.4
90歳以上 95歳未満	1.3	▲ 2.8	8.1	12.3	6.5
95歳以上 100歳未満	▲ 0.5	▲ 2.1	7.5	9.8	4.3
100歳以上	6.1	1.3	13.6	19.4	13.1

■ 入院外 1人当たり医療費の対前々年伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
		3月	4月	5月	
総数	3.8	▲ 1.7	6.4	3.2	▲ 1.1
0歳以上 5歳未満	▲ 2.6	▲ 25.0	▲ 7.5	4.5	7.0
5歳以上 10歳未満	▲ 0.3	▲ 19.8	▲ 9.8	▲ 6.1	▲ 5.7
10歳以上 15歳未満	▲ 0.6	▲ 11.8	▲ 5.3	▲ 1.8	▲ 2.9
15歳以上 20歳未満	4.2	▲ 2.0	6.5	6.1	5.5
20歳以上 25歳未満	3.0	▲ 0.4	7.6	13.4	10.5
25歳以上 30歳未満	4.0	▲ 2.7	3.7	9.3	7.6
30歳以上 35歳未満	5.4	▲ 2.4	4.6	8.3	6.5
35歳以上 40歳未満	3.7	▲ 3.0	3.6	6.2	3.4
40歳以上 45歳未満	4.2	▲ 1.4	4.9	5.3	2.2
45歳以上 50歳未満	2.9	▲ 1.1	5.5	4.5	0.8
50歳以上 55歳未満	3.0	▲ 1.1	5.8	3.4	▲ 0.6
55歳以上 60歳未満	3.7	▲ 0.5	6.1	2.5	▲ 1.4
60歳以上 65歳未満	3.4	▲ 1.2	6.5	1.9	▲ 3.4
65歳以上 70歳未満	2.5	▲ 1.5	7.6	1.2	▲ 3.6
70歳以上 75歳未満	0.8	▲ 1.9	7.4	0.9	▲ 4.6
75歳以上 80歳未満	2.0	▲ 3.0	5.5	▲ 0.6	▲ 5.8
80歳以上 85歳未満	1.5	▲ 2.6	6.2	0.0	▲ 5.2
85歳以上 90歳未満	1.2	▲ 2.5	4.8	▲ 0.8	▲ 5.3
90歳以上 95歳未満	1.5	▲ 1.5	4.9	0.2	▲ 4.4
95歳以上 100歳未満	▲ 1.0	▲ 2.6	3.9	▲ 0.3	▲ 4.1
100歳以上	7.7	7.5	14.1	13.1	9.5

■ : 変動幅が10%を超える区分

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和3年度4月～5月 ②-1 疾病分類別 入院 (対前年)

- 入院医療費の伸び率について、疾病分類別に見ると、対前年では、ほとんどの疾病分類でプラスとなっており、とりわけ、「眼及び付属器の疾患」「筋骨格系及び結合組織の疾患」などの増加幅が大きい。
- 影響度で見ると、4月、5月ともに「循環器系の疾患」の影響が大きい。

■入院 疾病分類別 医療費の対前年伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度		令和2年度 医療費の構 成割合
		3月	4月	5月	5月	
総数	2.3	▲ 3.7	1.3	6.7	10.1	100.0
感染症及び寄生虫症	1.2	▲ 4.2	7.5	12.1	12.7	1.4
新生物<腫瘍>	2.7	▲ 3.5	▲ 0.8	1.0	6.2	16.5
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3.7	▲ 3.9	0.4	5.4	3.2	0.7
内分泌、栄養及び代謝疾患	2.4	▲ 3.9	0.6	7.6	7.1	2.7
精神及び行動の障害	▲ 0.4	▲ 1.7	▲ 1.3	0.3	▲ 0.0	8.8
神経系の疾患	4.0	▲ 0.6	0.7	4.1	4.7	6.7
眼及び付属器の疾患	3.4	▲ 14.5	▲ 6.3	8.7	34.7	1.4
耳及び乳様突起の疾患	0.4	▲ 15.9	▲ 6.2	26.6	24.0	0.3
循環器系の疾患	2.6	▲ 2.5	1.8	7.7	10.2	22.1
呼吸器系の疾患	1.1	▲ 20.8	▲ 8.9	6.7	13.1	5.2
消化器系の疾患	2.0	▲ 3.6	2.5	11.8	12.2	5.9
皮膚及び皮下組織の疾患	3.6	▲ 2.4	0.3	7.0	6.4	0.8
筋骨格系及び結合組織の疾患	4.8	▲ 3.8	▲ 0.2	9.2	24.6	7.2
腎尿路生殖器系の疾患	4.4	▲ 1.5	1.3	7.4	6.8	4.3
妊娠、分娩及び産じょく	▲ 1.1	▲ 4.7	▲ 0.7	5.4	3.6	1.1
周産期に発生した病態	0.7	0.7	▲ 7.6	1.8	▲ 0.6	1.0
先天奇形、変形及び染色体異常	1.2	▲ 6.2	▲ 2.6	7.4	19.7	0.8
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2.3	▲ 6.3	3.2	8.6	9.4	0.9
損傷、中毒及びその他の外因の影響	3.7	▲ 0.9	3.4	8.7	7.7	10.5
不詳	▲ 12.1	▲ 15.0	▲ 10.0	▲ 7.2	▲ 5.7	1.3

■ : 変動幅が10%を超える区分

■ : 上位5疾病分類



※影響度は (各疾病分類の医療費の増減分) ÷ (前期の医療費総数) × 100 で算定

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和3年度4月～5月 ②-1 疾病分類別 入院 (対前々年)

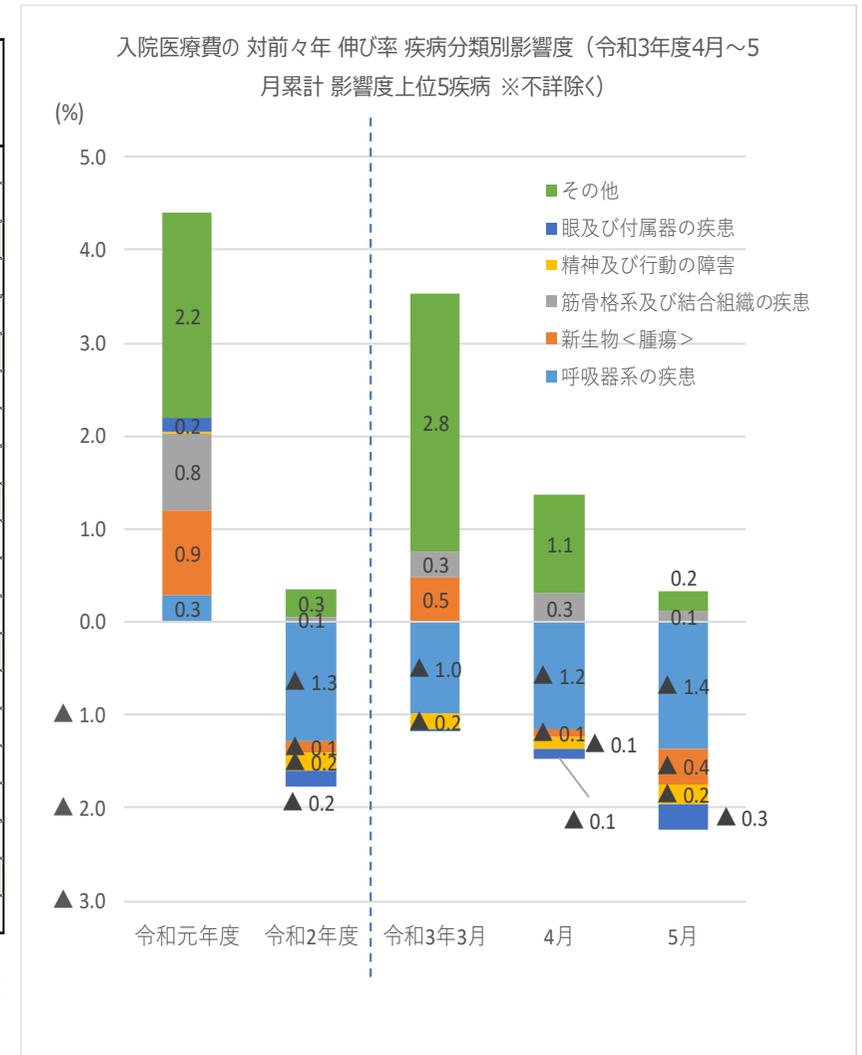
- 入院医療費の伸び率について疾病分類別に見ると、対前々年では、多くの疾病分類でマイナスとなっており、特に「耳及び乳様突起の疾患」「呼吸器系の疾患」の減少幅が大きい。
- 影響度で見ると、4月、5月ともに「呼吸器系の疾患」の影響が大きい。

■入院 疾病分類別 医療費の対前々年伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度		令和元年度 医療費の構 成割合
			3月	4月	5月	
総数	4.4	▲ 1.4	2.4	▲ 0.1	▲ 1.9	100.0
感染症及び寄生虫症	▲ 2.0	▲ 3.0	▲ 0.7	▲ 6.0	▲ 4.0	1.4
新生物<腫瘍>	5.7	▲ 0.8	3.0	▲ 0.4	▲ 2.4	16.4
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2.7	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 1.3	▲ 4.5	0.7
内分泌、栄養及び代謝疾患	1.4	▲ 1.6	▲ 0.7	▲ 1.3	▲ 3.5	2.7
精神及び行動の障害	0.2	▲ 2.0	▲ 1.8	▲ 1.7	▲ 2.6	8.6
神経系の疾患	11.0	3.4	3.2	2.5	0.6	6.5
眼及び付属器の疾患	10.4	▲ 11.6	▲ 1.8	▲ 6.4	▲ 17.6	1.5
耳及び乳様突起の疾患	4.1	▲ 15.5	▲ 8.0	▲ 12.0	▲ 17.9	0.3
循環器系の疾患	3.7	0.0	3.1	0.2	▲ 1.1	21.9
呼吸器系の疾患	4.5	▲ 19.9	▲ 15.9	▲ 18.1	▲ 20.4	6.3
消化器系の疾患	7.9	▲ 1.6	1.9	0.7	▲ 2.4	5.9
皮膚及び皮下組織の疾患	9.4	1.1	3.2	1.0	▲ 1.8	0.8
筋骨格系及び結合組織の疾患	12.2	0.8	3.9	4.3	1.8	7.2
腎尿路生殖器系の疾患	9.1	2.9	4.2	2.5	▲ 1.6	4.2
妊娠、分娩及び産じょく	▲ 0.6	▲ 5.8	0.2	2.9	▲ 3.0	1.1
周産期に発生した病態	2.3	1.5	3.4	6.1	5.8	0.9
先天奇形、変形及び染色体異常	4.2	▲ 5.1	▲ 0.8	▲ 4.5	▲ 2.6	0.8
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	▲ 0.5	▲ 4.1	0.9	▲ 1.2	▲ 2.3	0.9
損傷、中毒及びその他の外因の影響	7.0	2.7	6.0	3.0	▲ 1.4	10.2
不詳	▲ 38.2	▲ 25.3	▲ 19.3	▲ 20.3	▲ 22.2	1.5

▲ : 変動幅が10%を超える区分

■ : 上位5疾病分類



※影響度は (各疾病分類の医療費の増減分) ÷ (前期の医療費総数) × 100 で算定

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和3年度4月～5月 ②-1 疾病分類別 入院外 (対前年)

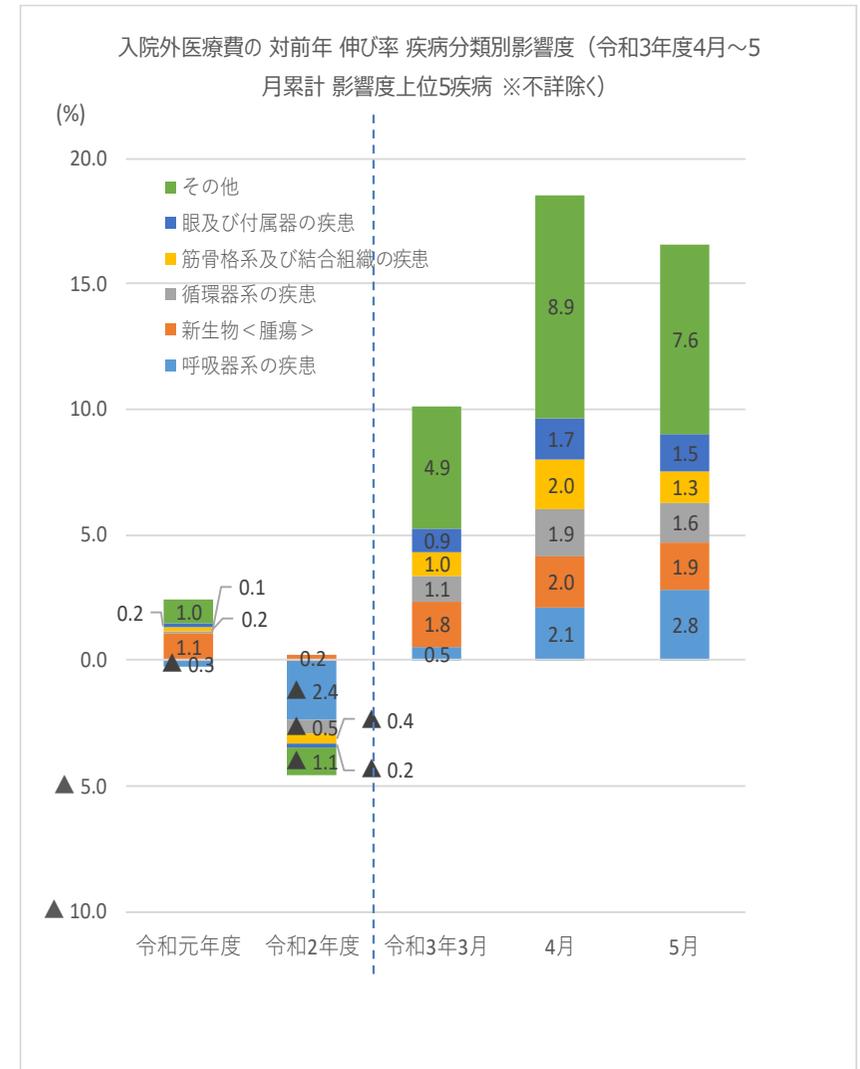
- 入院外医療費の伸び率について疾病分類別に見ると、対前年では、全ての疾病分類でプラスとなっており、多くの疾病分類で10%を超える増加となっている。
- 影響度で見ると、「呼吸器系の疾患」「新生物」「循環器系の疾患」などが1～2%程度のプラスの影響となっている。

■入院外 疾病分類別 医療費の対前年伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度		令和2年度 医療費の構 成割合
			3月	4月	5月	
総数	2.2	▲ 4.3	10.1	18.6	16.6	100.0
感染症及び寄生虫症	▲ 4.3	▲ 14.9	2.8	19.8	19.7	2.2
新生物<腫瘍>	9.3	1.8	13.7	15.1	14.4	13.1
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	12.5	2.3	9.0	10.0	7.4	1.3
内分泌、栄養及び代謝疾患	2.2	▲ 1.1	8.5	11.9	11.4	10.9
精神及び行動の障害	1.8	▲ 2.0	8.1	13.0	10.5	4.1
神経系の疾患	4.7	1.5	12.1	17.3	14.4	3.5
眼及び付属器の疾患	2.7	▲ 3.3	15.3	30.1	25.5	6.1
耳及び乳様突起の疾患	▲ 0.5	▲ 12.0	13.3	44.2	31.8	0.9
循環器系の疾患	0.4	▲ 3.4	6.7	11.0	9.7	15.9
呼吸器系の疾患	▲ 3.0	▲ 29.3	7.3	35.4	56.3	6.0
消化器系の疾患	1.6	▲ 3.7	12.4	25.1	21.7	5.3
皮膚及び皮下組織の疾患	5.4	0.3	11.3	28.7	12.2	3.2
筋骨格系及び結合組織の疾患	1.9	▲ 4.3	10.8	22.9	13.8	8.9
腎尿路生殖器系の疾患	2.9	▲ 1.4	5.1	6.1	4.5	11.2
妊娠、分娩及び産じょく	▲ 5.1	▲ 3.6	8.6	13.1	7.1	0.1
周産期に発生した病態	▲ 1.0	▲ 3.0	▲ 14.8	13.5	37.0	0.2
先天奇形、変形及び染色体異常	3.2	▲ 1.1	7.8	26.8	25.3	0.4
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	4.0	▲ 2.9	21.4	43.3	37.5	1.8
損傷、中毒及びその他の外因の影響	1.6	▲ 4.5	17.0	34.4	23.5	2.7
不詳	▲ 7.9	▲ 11.2	2.7	12.7	6.9	1.9

：変動幅が10%を超える区分

：上位5疾病分類



※影響度は (各疾病分類の医療費の増減分) ÷ (前期の医療費総数) × 100 で算定

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和3年度4月～5月 ②-1 疾病分類別 入院外 (対前々年)

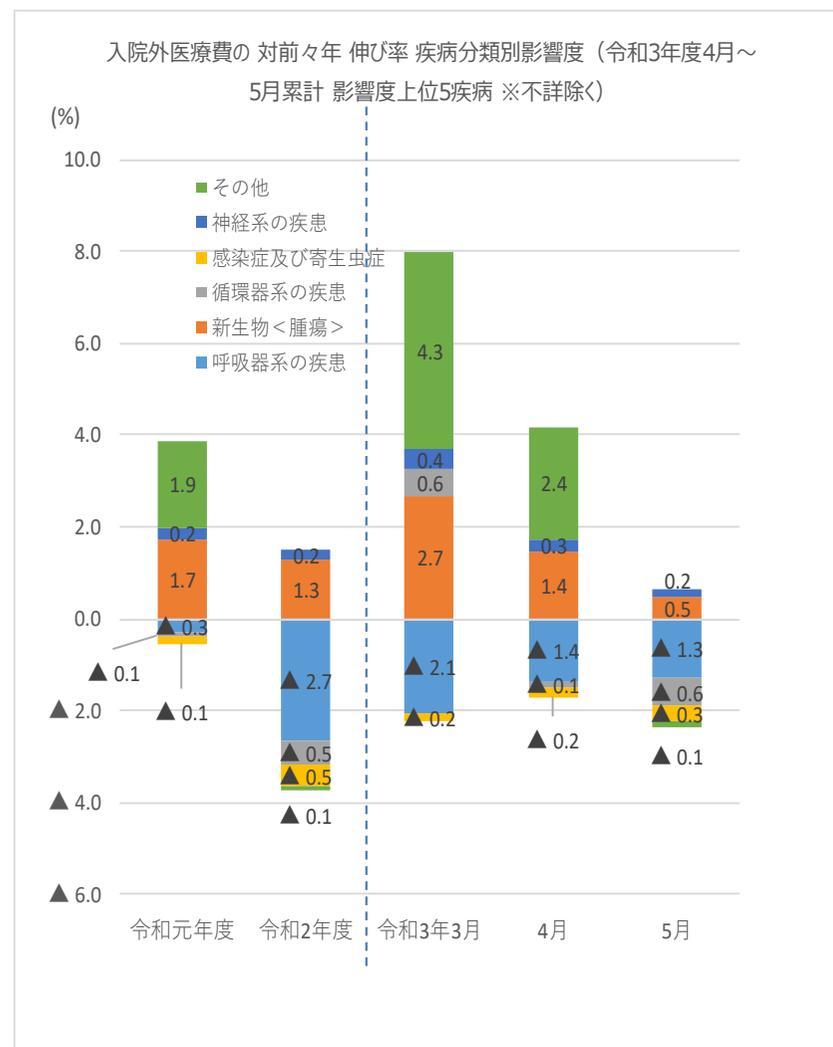
- 入院外医療費の伸び率について疾病分類別に見ると、対前々年では、増加を示す疾病分類も見られる中で、「呼吸器系の疾患」は15%を超える減少傾向が続いている。
- 影響度で見ると、「新生物」などはプラスの影響がある一方で、「呼吸器系の疾患」はマイナスの影響が継続。

■入院外 疾病分類別 医療費の対前々年伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度		令和元年度 医療費の構 成割合
			3月	4月	5月	
総数	3.3	▲ 2.2	5.7	2.5	▲ 1.7	100.0
感染症及び寄生虫症	▲ 5.1	▲ 18.6	▲ 6.8	▲ 8.6	▲ 12.3	2.5
新生物<腫瘍>	15.8	11.3	23.4	12.2	3.8	12.3
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	20.3	15.1	25.2	14.9	10.3	1.2
内分泌、栄養及び代謝疾患	3.1	1.0	7.8	3.3	0.8	10.6
精神及び行動の障害	3.2	▲ 0.3	7.2	2.1	▲ 1.6	4.0
神経系の疾患	8.0	6.3	13.5	9.2	5.8	3.3
眼及び付属器の疾患	5.9	▲ 0.7	7.1	4.5	▲ 2.3	6.0
耳及び乳様突起の疾患	1.6	▲ 12.4	▲ 4.9	▲ 4.6	▲ 7.3	0.9
循環器系の疾患	▲ 0.5	▲ 3.0	3.7	▲ 0.7	▲ 3.8	15.7
呼吸器系の疾患	▲ 3.6	▲ 31.4	▲ 21.2	▲ 16.2	▲ 16.4	8.1
消化器系の疾患	2.7	▲ 2.1	6.4	3.0	▲ 1.1	5.3
皮膚及び皮下組織の疾患	9.6	5.7	10.5	9.9	1.8	3.1
筋骨格系及び結合組織の疾患	3.0	▲ 2.4	6.2	2.1	▲ 4.0	8.9
腎尿路生殖器系の疾患	4.2	1.5	6.5	1.3	▲ 3.1	10.8
妊娠、分娩及び産じょく	▲ 4.7	▲ 8.5	4.9	1.8	▲ 4.2	0.1
周産期に発生した病態	▲ 12.7	▲ 4.0	▲ 32.3	▲ 10.1	24.7	0.2
先天奇形、変形及び染色体異常	3.7	2.1	2.0	5.2	7.5	0.4
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	8.1	1.0	13.8	13.6	8.8	1.7
損傷、中毒及びその他の外因の影響	4.6	▲ 2.9	7.3	3.8	▲ 4.1	2.7
不詳	▲ 19.7	▲ 18.1	▲ 10.2	▲ 12.4	▲ 16.7	2.0

▲ : 変動幅が10%を超える区分

■ : 上位5疾病分類



※影響度は (各疾病分類の医療費の増減分) ÷ (前期の医療費総数) × 100 で算定

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和3年度4月～5月 ②-2 診療内容別 入院 (対前年)

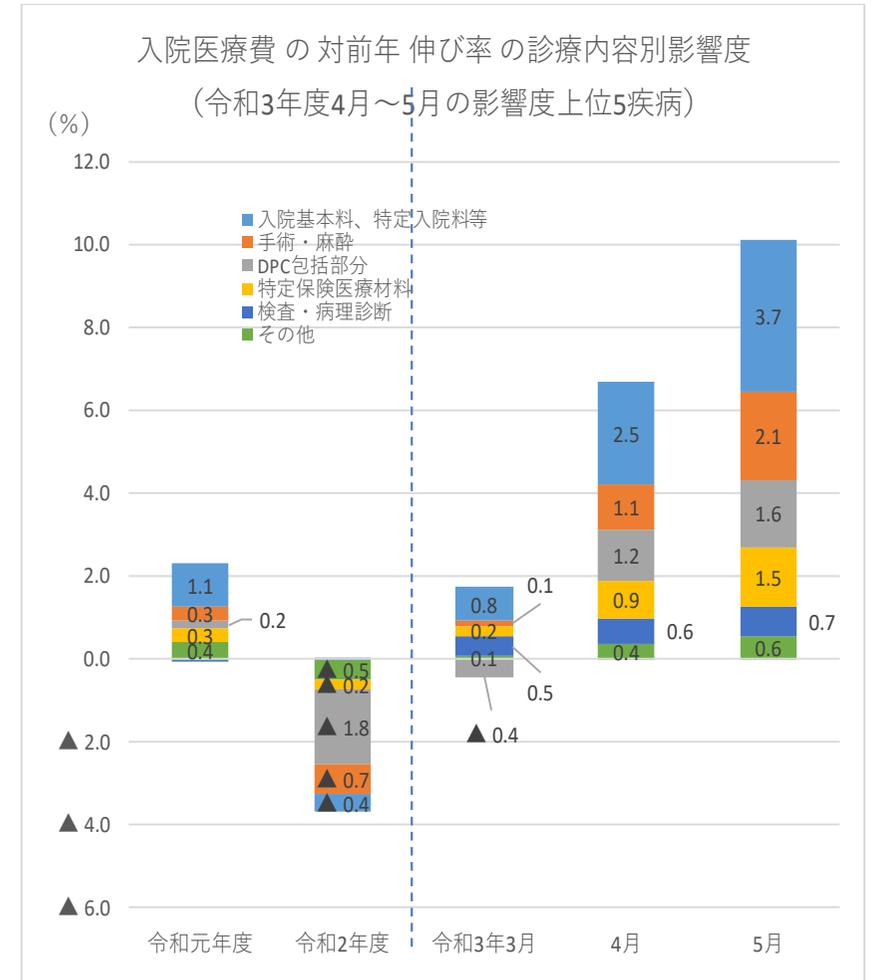
- 入院医療費の伸び率について診療内容別に見ると、対前年では、多くの診療内容でプラスとなっているが、「検査・病理診断」が50%を超える大きな増加となっている。
- 影響度で見ると、4月、5月ともに「入院基本料、特定入院料等」に次いで「手術・麻酔」のプラスの影響が大きい。

■ 入院医療費 診療内容別 対前年 伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度			令和3年度	令和2年度 医療費の 構成割合
			3月	4月		
総数	2.3	▲ 3.7	1.3	6.7	10.1	100.0
初診	0.6	▲ 10.5	2.7	15.9	11.6	0.1
医学管理	0.2	▲ 2.2	6.4	12.5	14.4	0.7
在宅	▲ 0.1	▲ 5.1	2.1	8.8	8.4	0.1
投薬	▲ 2.0	▲ 6.1	▲ 3.8	▲ 2.6	▲ 0.8	0.1
注射	▲ 3.1	▲ 7.1	▲ 1.1	▲ 0.8	1.1	0.2
処置	2.5	▲ 3.4	▲ 1.0	0.2	0.8	1.4
手術・麻酔	2.5	▲ 6.1	1.0	9.2	21.0	11.6
検査・病理診断	▲ 1.2	3.8	38.7	51.8	60.1	1.4
画像診断	▲ 0.8	▲ 4.9	5.3	4.3	4.7	0.5
リハビリテーション	2.6	3.3	5.1	2.4	1.3	5.5
精神科専門療法	1.9	3.1	6.1	3.2	0.9	0.6
放射線治療	3.0	▲ 2.7	4.0	▲ 5.3	3.0	0.3
入院基本料、特定入院料等	3.1	▲ 1.3	2.3	6.8	9.6	36.0
DPC包括部分	0.8	▲ 6.5	▲ 1.6	4.7	6.1	27.1
薬剤料	6.6	▲ 8.3	▲ 3.6	2.6	6.3	3.5
特定保険医療材料	5.2	▲ 3.6	3.6	14.0	26.5	6.4
入院時食事療養	0.1	▲ 5.7	▲ 3.8	0.6	2.4	3.6
生活療養食事療養	▲ 0.8	▲ 2.6	▲ 2.2	▲ 1.2	▲ 1.1	0.7
生活療養環境療養	▲ 0.2	▲ 2.7	▲ 2.1	▲ 1.0	▲ 0.7	0.2
その他	▲ 0.4	▲ 5.8	▲ 2.1	▲ 0.7	18.2	0.0

：変動幅が10%を超える区分

：上位5診療内容



※影響度は (各疾病分類の医療費の増減分) ÷ (前期の医療費総数) × 100 で算定

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和3年度4月～5月 ②-2 診療内容別 入院 (対前々年)

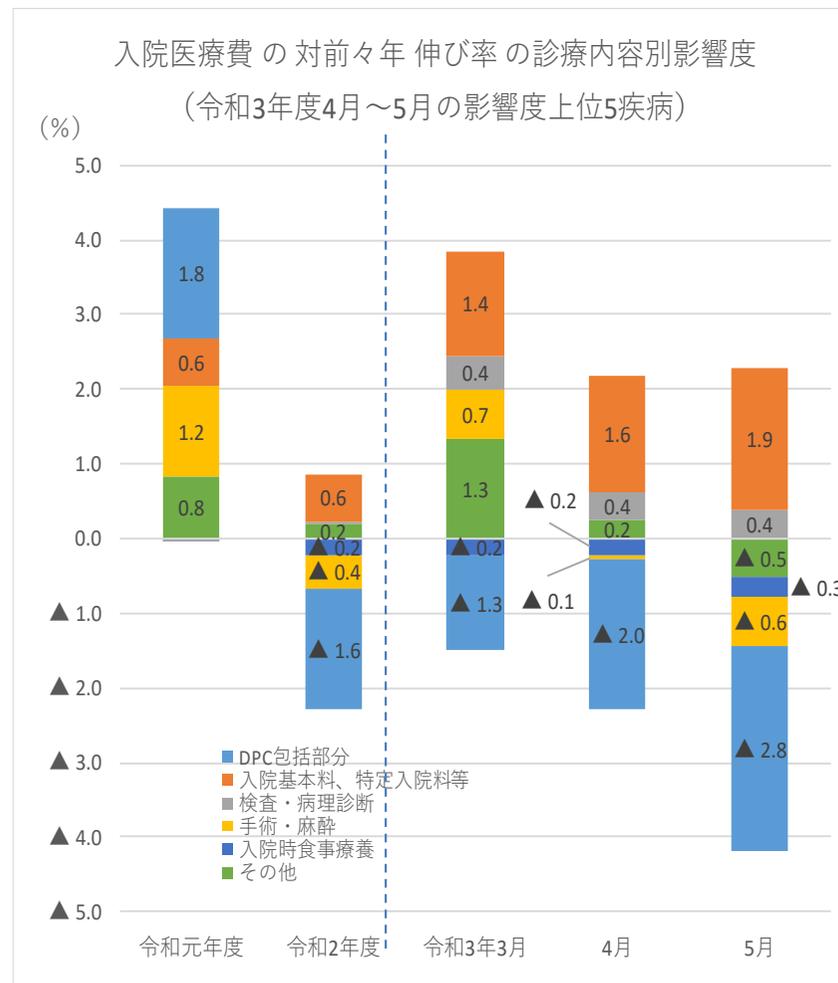
- 入院医療費の伸び率について診療内容別に見ると、対前々年では、多くの診療内容でマイナスとなっている中、「検査・病理診断」は30%弱の大きな増加となっている。
- 影響度で見ると、プラス方向には「入院基本料、特定入院料等」に次いで「検査・病理診断」が、マイナス方向には「DPC包括部分」に次いで「手術・麻酔」が影響している。

■ 入院医療費 診療内容別 対前々年 伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度		令和元年度 医療費の 構成割合
			3月	4月	5月	
総数	4.4	▲ 1.4	2.4	▲ 0.1	▲ 1.9	100.0
初診	2.5	▲ 10.0	▲ 4.1	▲ 9.9	▲ 8.9	0.1
医学管理	4.1	▲ 2.1	6.8	1.8	▲ 2.3	0.7
在宅	▲ 0.5	▲ 5.2	▲ 2.0	▲ 4.0	▲ 5.4	0.1
投薬	▲ 5.6	▲ 8.0	▲ 7.1	▲ 8.1	▲ 7.8	0.1
注射	▲ 9.3	▲ 10.0	▲ 5.4	▲ 8.9	▲ 8.4	0.2
処置	3.5	▲ 1.0	▲ 0.3	▲ 3.0	▲ 4.3	1.4
手術・麻酔	10.7	▲ 3.7	5.8	▲ 0.4	▲ 5.6	11.9
検査・病理診断	▲ 2.1	2.5	35.3	28.7	29.5	1.3
画像診断	▲ 6.2	▲ 5.7	3.5	▲ 6.4	▲ 9.0	0.5
リハビリテーション	4.9	6.0	10.2	5.1	1.0	5.1
精神科専門療法	8.0	5.1	12.5	4.4	▲ 3.0	0.5
放射線治療	18.9	0.2	10.2	▲ 3.2	▲ 9.4	0.3
入院基本料、特定入院料等	1.8	1.8	4.0	4.4	5.4	35.1
DPC包括部分	6.4	▲ 5.8	▲ 4.5	▲ 7.2	▲ 9.9	27.9
薬剤料	2.4	▲ 2.3	1.3	▲ 4.5	▲ 8.2	3.7
特定保険医療材料	6.2	1.3	10.6	4.2	▲ 0.5	6.4
入院時食事療養	▲ 0.4	▲ 5.7	▲ 6.1	▲ 6.1	▲ 7.0	3.7
生活療養食事療養	▲ 1.8	▲ 3.4	▲ 3.3	▲ 3.2	▲ 3.7	0.7
生活療養環境療養	▲ 0.3	▲ 2.9	▲ 2.9	▲ 2.8	▲ 3.1	0.2
その他	▲ 1.0	▲ 6.2	▲ 5.1	▲ 6.2	42.7	0.0

▲ : 変動幅が10%を超える区分

▲ : 上位5診療内容



※影響度は (各疾病分類の医療費の増減分) ÷ (前期の医療費総数) × 100 で算定

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和3年度4月～5月 ②-2 診療内容別 入院外 (対前年)

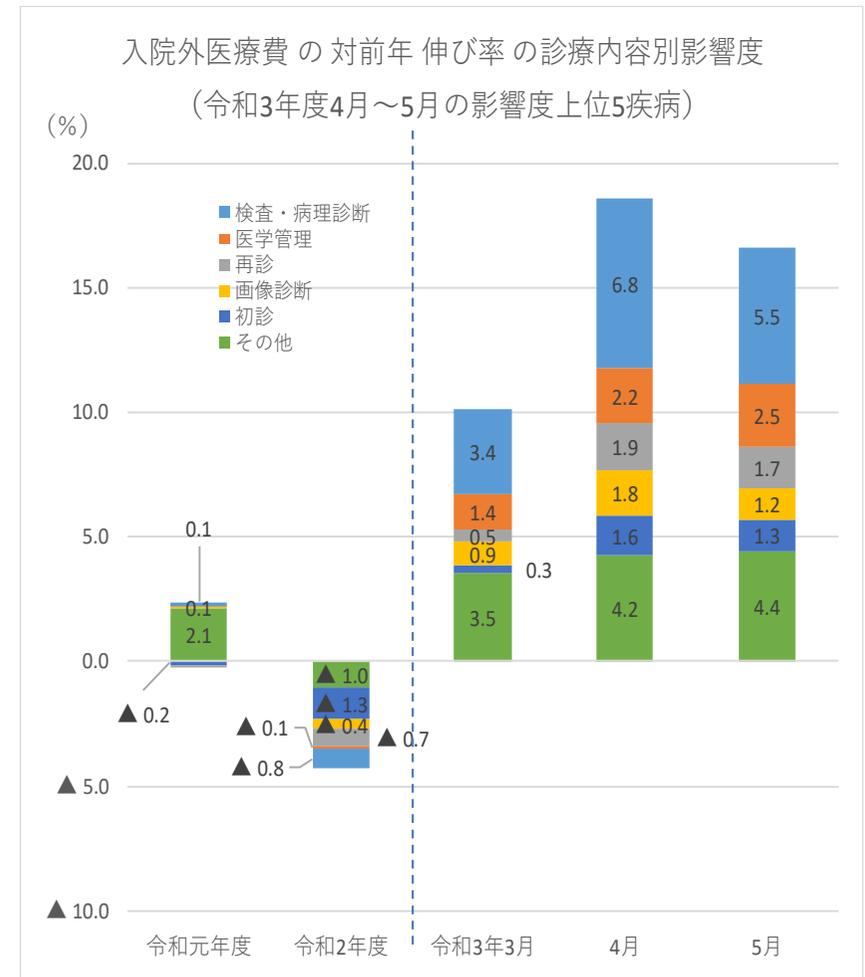
- 入院外医療費の伸び率について診療内容別に見ると、対前年では、ほとんどの診療内容でプラスとなり、多くの診療内容で10%を超えるプラスとなり、とりわけ「初診」「検査・病理診断」が30%を超える大きな増加となっている。
- 影響度で見ると、4月、5月ともに「検査・病理診断」のプラスの影響が最も大きい。

■ 入院外医療費 診療内容別 対前年 伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度			令和3年度 医療費の 構成割合	
			3月	4月		5月
総数	2.2	▲ 4.3	10.1	18.6	16.6	100.0
初診	▲ 3.0	▲ 24.2	7.2	45.9	33.9	4.3
再診	▲ 0.2	▲ 8.0	5.8	21.6	20.6	8.3
医学管理	0.3	▲ 1.0	17.8	25.6	29.7	8.6
在宅	5.0	7.3	10.1	10.1	9.2	6.8
投薬	▲ 4.5	▲ 8.0	3.1	4.0	4.8	1.1
注射	▲ 0.8	▲ 6.5	7.9	12.9	5.4	0.7
処置	1.7	▲ 3.3	3.8	5.1	2.8	8.8
手術・麻酔	4.8	▲ 3.6	11.2	20.6	27.0	2.8
検査・病理診断	0.8	▲ 4.4	19.1	42.2	32.3	18.4
画像診断	1.2	▲ 5.6	14.0	29.8	18.6	6.8
処方箋料	0.6	▲ 7.5	4.8	10.7	11.6	4.7
リハビリテーション	1.4	▲ 2.9	15.1	35.6	30.3	1.5
精神科専門療法	1.3	▲ 4.1	6.6	13.0	10.4	2.3
放射線治療	8.7	3.5	2.2	▲ 2.4	11.9	0.6
薬剤料	6.5	▲ 2.3	5.8	3.8	5.4	23.1
特定保険医療材料	5.0	3.1	8.5	6.2	5.1	1.1
その他	8.6	▲ 0.6	17.2	14.0	45.3	0.0

：変動幅が10%を超える区分

：上位5診療内容



※影響度は (各疾病分類の医療費の増減分) ÷ (前期の医療費総数) × 100 で算定

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和3年度4月～5月 ②-2 診療内容別 入院外 (対前々年)

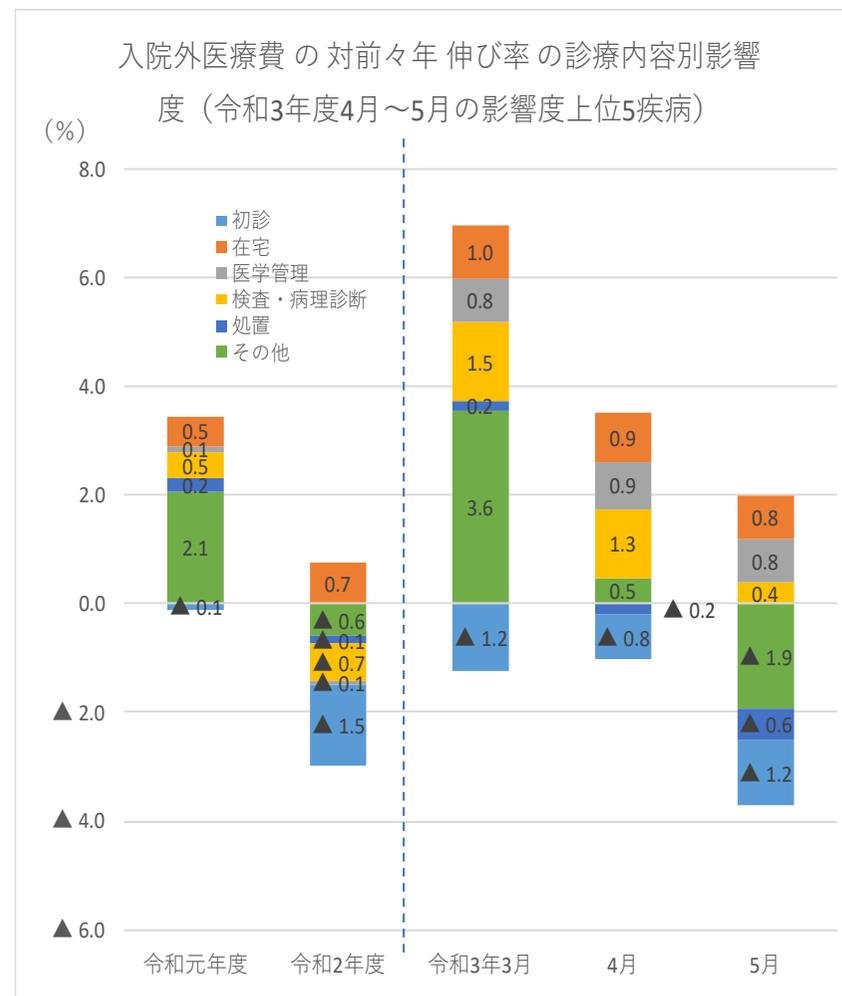
- 入院外医療費の伸び率について診療内容別に見ると、対前々年では、診療内容によって状況は様々であるが、「初診」はが15%を超える減少が継続している。
- 影響度で見ると、「在宅」「医学管理」「検査・病理診断」のプラスの影響がある一方で、「初診」のマイナスの影響もある。

■ 入院外医療費 診療内容別 対前々年 伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度		令和元年度 医療費の 構成割合
			3月	4月	5月	
総数	3.3	▲ 2.2	5.7	2.5	▲ 1.7	100.0
初診	▲ 1.7	▲ 26.4	▲ 20.6	▲ 16.1	▲ 21.5	5.4
再診	▲ 0.6	▲ 8.2	▲ 1.3	1.1	▲ 0.5	8.7
医学管理	1.5	▲ 0.7	9.9	10.4	9.6	8.3
在宅	9.1	12.6	16.7	14.8	13.6	6.1
投薬	▲ 7.8	▲ 12.1	▲ 8.7	▲ 9.8	▲ 10.9	1.2
注射	▲ 1.1	▲ 7.3	3.2	▲ 3.1	▲ 10.2	0.7
処置	2.6	▲ 1.6	1.8	▲ 2.2	▲ 6.3	8.7
手術・麻酔	9.5	1.0	13.9	7.7	▲ 2.5	2.8
検査・病理診断	2.6	▲ 3.7	7.7	6.8	2.1	18.4
画像診断	3.7	▲ 4.5	5.6	0.3	▲ 9.1	6.9
処方箋料	3.7	▲ 6.9	▲ 3.0	▲ 4.1	▲ 5.9	4.8
リハビリテーション	5.3	▲ 1.6	9.5	9.6	2.4	1.5
精神科専門療法	2.5	▲ 2.9	4.9	▲ 0.6	▲ 5.2	2.3
放射線治療	21.8	12.5	17.9	8.4	7.0	0.6
薬剤料	5.6	4.1	12.3	1.1	▲ 3.1	22.7
特定保険医療材料	7.0	8.2	12.7	7.3	3.2	1.0
その他	15.9	7.9	18.2	10.2	10.8	0.0

：変動幅が10%を超える区分

：上位5診療内容



※影響度は (各疾病分類の医療費の増減分) ÷ (前期の医療費総数) × 100 で算定

電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 ＜令和3年度4月～5月＞

レセプト電算処理システムにより処理された調剤報酬明細書（電子レセプト）を用いて集計、調剤医療費の動向について詳細を分析。

- 薬剤料については、対前年では処方箋枚数が大きく増加した影響もあり5月はプラスも、対前々年では処方箋枚数の減少により4月、5月ともにマイナス。
- 薬剤料の伸び率を薬効分類別に見ると、対前年、対前々年ともに「その他の代謝性医薬品」「腫瘍用薬」がプラスに影響し、「中枢神経系用薬」「循環器官用薬」はマイナスに影響している。
- 処方箋1枚当たり薬剤料の伸び率を薬効分類別で見ると、対前年では「中枢神経系用薬」「循環器官用薬」のマイナスの影響が大きく、対前々年では「その他の代謝性医薬品」「腫瘍用薬」のプラスの影響が大きい。
- 後発医薬品割合（数量ベース）は令和3年5月時点で 82.4% 。

電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 令和3年度4月～5月 ① 調剤医療費・薬剤料の伸び率の推移

- 調剤医療費（電算処理分）の対前年伸び率を見ると、技術料のプラスの影響もありプラスで推移する一方、対前々年では、主に薬剤料のマイナスの影響によりマイナスで推移している。
- 薬剤料の対前年伸び率については、処方箋枚数は10%を超えるプラスとなるも、処方箋1枚当たり薬剤料が減少している影響もあり、4月は▲3.6%、5月は2.2%で推移。対前々年で見ると、処方箋枚数の減少処方箋1枚当たり薬剤料の増加の影響を上回り、マイナスで推移。

■ 調剤医療費（電算処理分）の対前年伸び率影響度（%）

	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
調剤医療費（電算処理分）	3.7	-2.6	4.6	0.5	5.5
技術料	0.6	-1.3	1.8	3.3	3.9
薬剤料	3.1	-1.4	2.8	-2.8	1.6

■ 調剤医療費（電算処理分）の対前々年伸び率影響度（%）

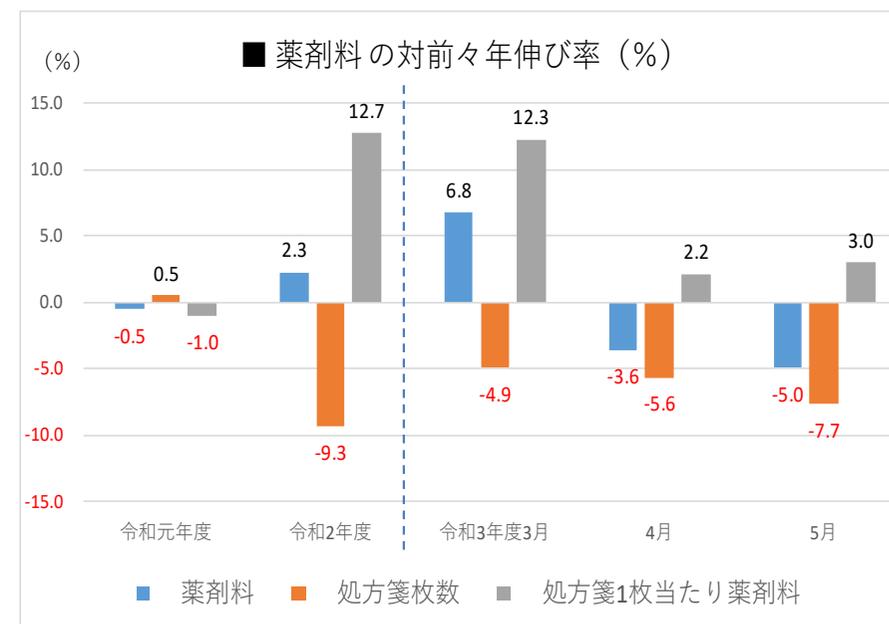
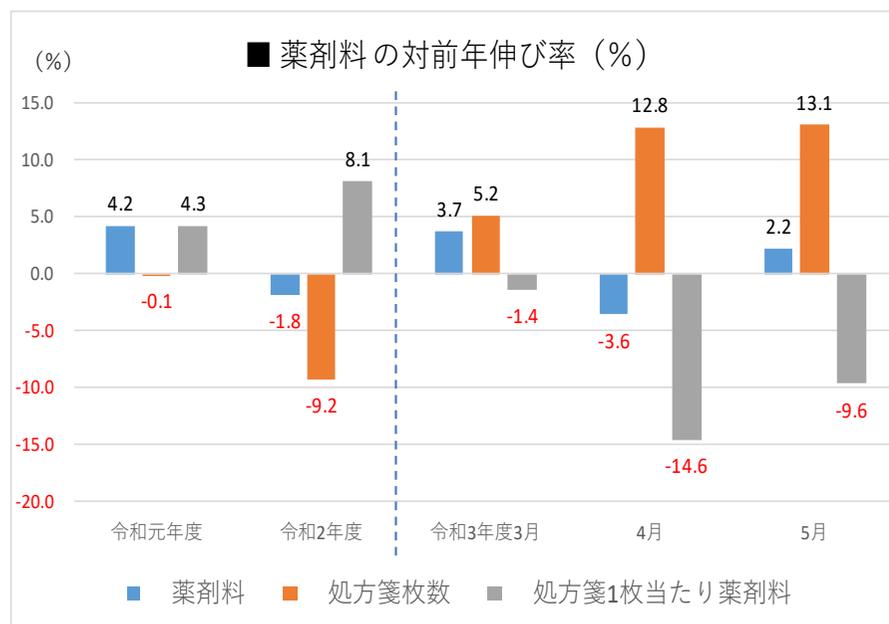
	令和元年度	令和2年度		令和3年度	
			3月	4月	5月
調剤医療費（電算処理分）	0.5	1.0	5.3	-2.4	-3.8
技術料	0.8	-0.7	0.4	0.3	-0.1
薬剤料	-0.4	1.6	4.9	-2.8	-3.8

■ 薬剤料の対前年伸び率（%）

薬剤料	4.2	-1.8	3.7	-3.6	2.2
処方箋枚数	-0.1	-9.2	5.2	12.8	13.1
処方箋1枚当たり薬剤料	4.3	8.1	-1.4	-14.6	-9.6

■ 薬剤料の対前々年伸び率（%）

薬剤料	-0.5	2.3	6.8	-3.6	-5.0
処方箋枚数	0.5	-9.3	-4.9	-5.6	-7.7
処方箋1枚当たり薬剤料	-1.0	12.7	12.3	2.2	3.0

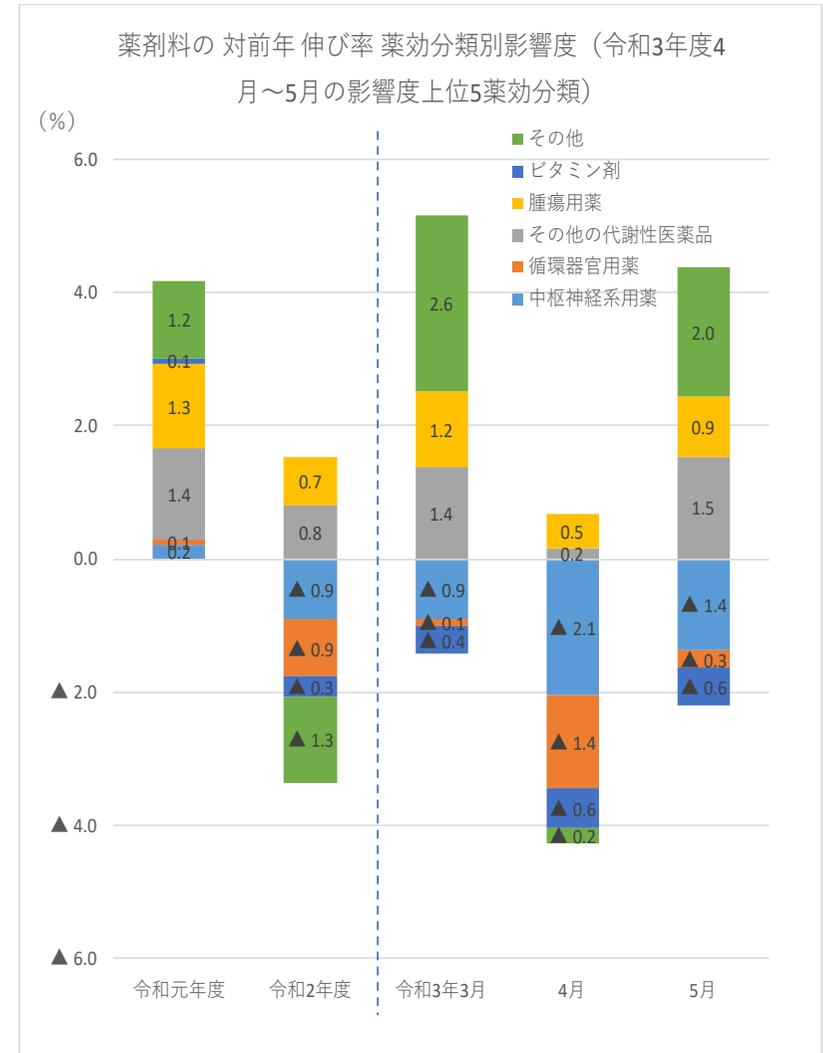


電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 令和3年度4月～5月 ② 薬効分類別 薬剤料 (対前年)

- 薬剤料の対前年伸び率を薬効分類別に見ると、「ビタミン剤」「中枢神経系用薬」「呼吸器用薬」の減少が大きい。
- 対前年伸び率への影響としては、「その他の代謝性医薬品」「腫瘍用薬」がプラスに影響している一方で、「中枢神経系用薬」「循環器用薬」はマイナスに影響している。

■ 薬剤料の薬効分類別 対前年 伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度		令和2年度 薬剤料の構成割合※
			3月	4月	5月	
総数	4.2	▲ 1.8	3.7	▲ 3.6	2.2	100.0
中枢神経系用薬	1.4	▲ 6.2	▲ 6.4	▲ 13.9	▲ 9.2	14.1
感覚器用薬	▲ 2.0	1.0	24.3	7.5	0.3	4.1
循環器用薬	0.4	▲ 5.7	▲ 0.6	▲ 9.3	▲ 1.8	14.5
呼吸器用薬	3.1	▲ 17.8	▲ 13.5	▲ 10.7	4.4	2.9
消化器用薬	6.4	2.8	8.4	▲ 0.5	5.8	7.8
ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	8.7	2.6	3.2	▲ 5.4	1.6	4.5
泌尿生殖器および肛門用薬	▲ 3.7	▲ 5.0	▲ 0.2	▲ 9.0	▲ 5.6	2.3
外皮用薬	1.3	▲ 1.1	7.1	6.4	2.8	3.2
ビタミン剤	5.2	▲ 16.3	▲ 25.1	▲ 32.6	▲ 30.8	1.5
滋養強壮薬	4.7	5.4	8.9	1.1	5.8	1.0
血液・体液用薬	6.0	▲ 3.4	0.9	▲ 0.5	5.0	7.2
その他の代謝性医薬品	9.8	5.4	9.2	1.1	9.9	15.9
腫瘍用薬	19.5	9.8	15.2	6.2	10.7	8.4
アレルギー用薬	2.7	▲ 5.3	8.7	▲ 2.0	0.2	3.8
漢方製剤	5.4	3.1	9.8	6.4	13.5	2.3
抗生物質製剤	▲ 6.4	▲ 27.3	▲ 8.1	▲ 0.2	13.8	0.7
化学療法剤	▲ 15.7	▲ 18.9	▲ 8.2	▲ 9.4	▲ 2.8	3.2
生物学的製剤	29.3	8.4	8.0	3.3	11.4	1.3



▲ : 変動幅が10%を超える薬効分類

■ : 上位5薬効分類

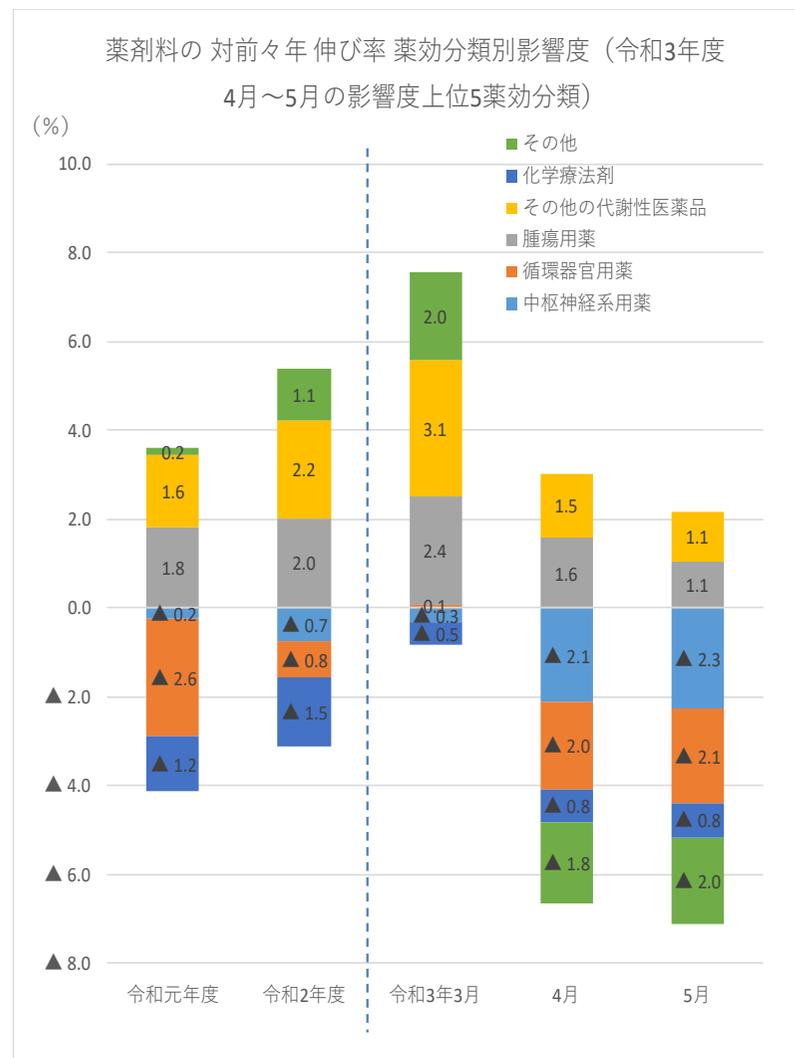
※影響度は (各薬効分類の薬剤料の増減分) ÷ (前期の薬剤料総数) × 100 で算定

電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 令和3年度4月～5月 ② 薬効分類別 薬剤料 (対前々年)

- 薬剤料の対前々年伸び率を薬効分類別に見ると、「抗生物質製剤」や「ビタミン剤」など大きく減少している薬効分類もある中、「腫瘍用薬」や「生物学的製剤」などは大きく増加している。
- 対前々年伸び率への影響としては、「その他の代謝性医薬品」「腫瘍用薬」がプラスに影響している一方、「中枢神経系用薬」「循環器官用薬」などのマイナスの影響が大きい。

■ 薬剤料の薬効分類別 対前々年 伸び率 (%)

	令和元年度	令和2年度		令和3年度		令和元年度 薬剤料の構 成割合※
			3月	4月	5月	
総数	▲ 0.5	2.3	6.8	▲ 3.6	▲ 5.0	100.0
中枢神経系用薬	▲ 1.7	▲ 4.9	▲ 2.3	▲ 14.3	▲ 15.2	14.8
感覚器官用薬	▲ 4.3	▲ 1.1	▲ 3.4	▲ 8.0	▲ 9.0	3.9
循環器官用薬	▲ 15.0	▲ 5.3	0.6	▲ 12.6	▲ 13.6	15.0
呼吸器官用薬	2.5	▲ 15.3	▲ 13.7	▲ 20.4	▲ 20.4	3.4
消化器官用薬	▲ 0.2	9.4	15.2	2.3	0.3	7.4
ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	9.0	11.6	17.7	6.4	4.8	4.3
泌尿生殖器官および肛門用薬	▲ 8.3	▲ 8.6	▲ 3.7	▲ 13.9	▲ 16.0	2.3
外皮用薬	▲ 5.6	0.1	7.2	▲ 2.3	▲ 6.5	3.1
ビタミン剤	4.5	▲ 12.0	▲ 20.7	▲ 31.9	▲ 33.3	1.8
滋養強壮薬	2.5	10.3	18.9	8.0	6.6	1.0
血液・体液用薬	2.5	2.4	7.1	▲ 3.4	▲ 6.3	7.3
その他の代謝性医薬品	12.4	15.7	22.6	10.2	7.5	14.8
腫瘍用薬	32.4	31.2	36.9	22.4	14.2	7.5
アレルギー用薬	▲ 9.9	▲ 2.8	▲ 12.3	▲ 19.3	▲ 10.9	3.9
漢方製剤	6.7	8.7	13.1	8.4	9.2	2.2
抗生物質製剤	▲ 21.4	▲ 32.0	▲ 27.7	▲ 33.2	▲ 34.5	1.0
化学療法剤	▲ 24.1	▲ 31.7	▲ 13.1	▲ 20.4	▲ 20.6	3.9
生物学的製剤	50.0	40.3	51.1	34.8	23.5	1.1

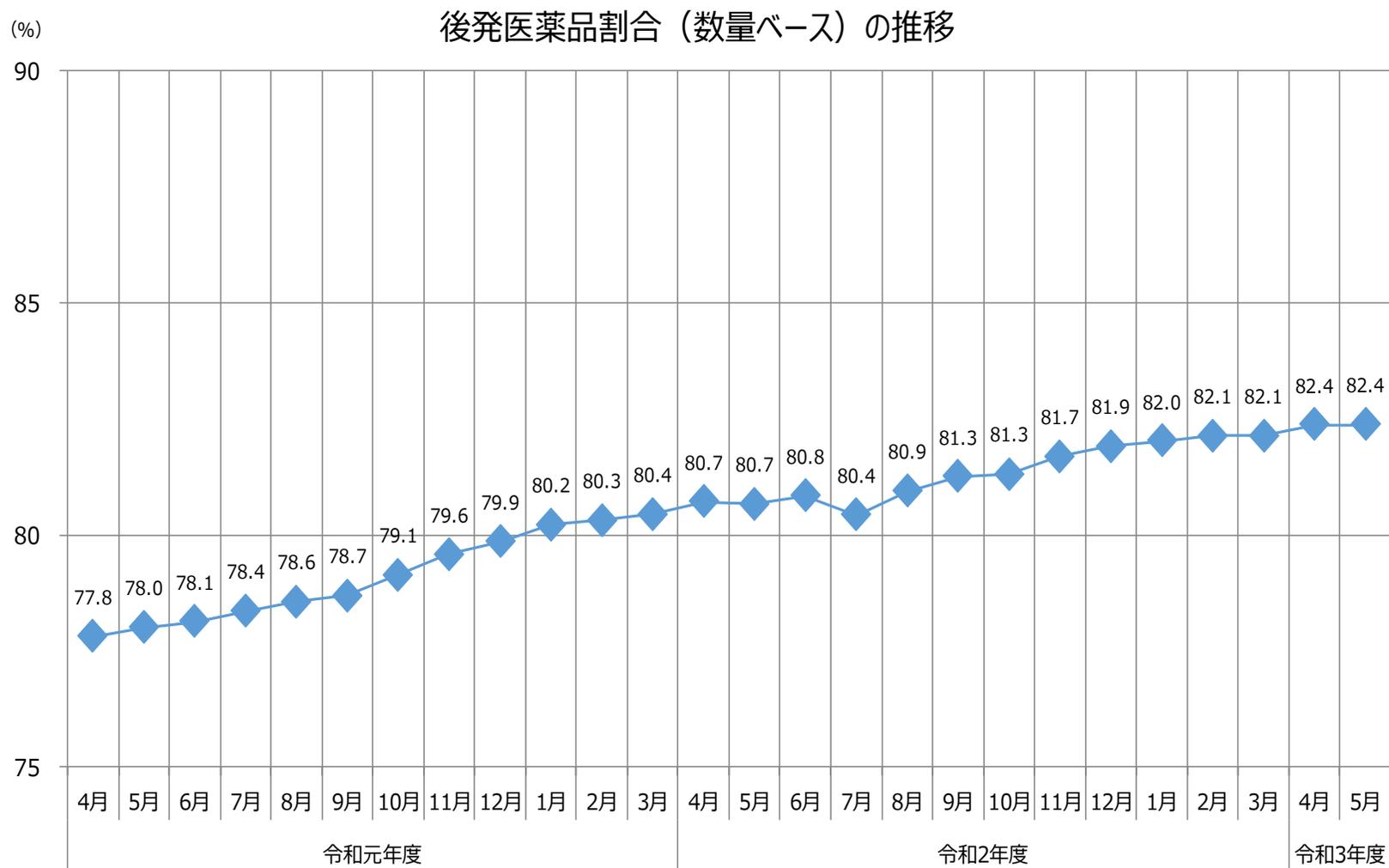


▲ : 変動幅が10%を超える薬効分類 ▲ : 上位5薬効分類

※影響度は (各薬効分類の薬剤料の増減分) ÷ (前期の薬剤料総数) × 100 で算定

電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 令和3年度4月～5月 ④後発医薬品割合（数量ベース）の推移

- 後発医薬品割合（数量ベース、新指標）は、令和3年5月時点で82.4%。
- 令和3年3月からはわずかに上昇。



注1) 「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。

注2) 「後発医薬品割合（数量ベース）」は、 $\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}])}$ で算出している。

電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 令和3年度4月～5月 ⑤都道府県別の後発医薬品割合（数量ベース）

- 後発医薬品割合（数量ベース、新指標）を都道府県別に見ると、令和3年度5月時点では沖縄県が89.7%で最も大きく、徳島県が78.7%で最も小さい。
- 前年度末からの差異を見ると、東京都が0.5%で最大、福井県が▲0.1%で最小となった。

(単位：%)

	令和2年度 3月	令和3年度 5月	差異
総数	82.1	82.4	0.2
北海道	83.5	83.7	0.3
青森県	82.3	82.5	0.2
岩手県	86.7	87.0	0.3
宮城県	84.8	84.9	0.1
秋田県	83.3	83.4	0.1
山形県	85.7	85.9	0.2
福島県	83.5	83.7	0.2
茨城県	81.8	82.1	0.3
栃木県	84.2	84.2	0.0
群馬県	84.8	85.2	0.3
埼玉県	82.9	83.1	0.2
千葉県	82.5	82.8	0.3
東京都	78.4	78.9	0.5
神奈川県	80.4	80.6	0.2
新潟県	84.2	84.4	0.1
富山県	84.1	84.3	0.2
石川県	83.0	83.0	0.1
福井県	84.1	84.0	▲0.1
山梨県	81.7	82.1	0.4
長野県	84.6	84.7	0.1
岐阜県	81.2	81.3	0.1
静岡県	83.5	83.6	0.1
愛知県	82.8	82.9	0.1
三重県	82.7	82.6	▲0.1

: 上位5県
 : 下位5県

(単位：%)

	令和2年度 3月	令和3年度 5月	差異
滋賀県	82.7	82.7	▲0.0
京都府	79.9	80.1	0.2
大阪府	79.8	80.2	0.3
兵庫県	81.3	81.4	0.1
奈良県	79.4	79.5	0.1
和歌山県	80.4	80.3	▲0.0
鳥取県	85.1	85.2	0.1
島根県	85.8	85.9	0.1
岡山県	83.4	83.5	0.1
広島県	80.3	80.4	0.0
山口県	84.3	84.4	0.1
徳島県	78.4	78.7	0.3
香川県	80.0	80.1	0.1
愛媛県	83.1	83.4	0.3
高知県	79.2	79.5	0.3
福岡県	83.0	83.3	0.3
佐賀県	84.2	84.4	0.2
長崎県	83.4	83.5	0.1
熊本県	84.9	85.1	0.2
大分県	82.9	83.1	0.2
宮崎県	85.8	86.0	0.2
鹿児島県	87.4	87.6	0.2
沖縄県	89.5	89.7	0.2

最大	89.5 (沖縄県)	89.7 (沖縄県)	0.5 (東京都)
最小	78.4 (徳島県)	78.7 (徳島県)	▲0.1 (福井県)

注1) 「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。

注2) 「後発医薬品割合(数量ベース)」は、〔後発医薬品の数量〕/〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕+〔後発医薬品の数量〕で算出している。